財　　産　　目　　録

令和6年3月31日現在

Ⅰ　資産額	3,508,675,087 円
内　基本財産	2,986,421,017 円
運用財産	522,254,070 円
Ⅱ　負債額	173,787,445 円
Ⅲ　正味財産　(資産額－負債額)	3,334,887,642 円

科　　　目	令和5年度末		
一　資産額			
(一)基本財産			
1 土地			
倉敷校地	68,534.87	㎡	337,543,850 円
鴨方校地	15,310.81	㎡	28,135,724 円
里庄校地	19,483.00	㎡	0 円
2 建物	24,924.97	㎡	2,088,969,718 円
3 構築物			2,371,995 円
4 図書			447,375,534 円
5 教具・校具・備品			82,024,192 円
6 車輌			4 円
(二)運用財産			
1 現金預金			93,064,263 円
2 積立金			423,098,898 円
3 電話加入権			2,924,514 円
4 預託金			9,110 円
5 販売用品			1,387,535 円
6 未収入金			1,716,750 円
7 前払金			53,000 円
合　　計			3,508,675,087 円
二　負債額			
1 固定負債			
(1) 長期未払金			1,126,411 円
(2) 退職給与引当金			128,130,012 円
2 流動負債			
(1) 前受金			25,590,000 円
(2) 未払金			12,633,648 円
(3) 預り金			6,307,374 円
合　　計			173,787,445 円
三　正味財産　(資産額－負債額)			3,334,887,642 円

基本財産とは、岡山学院大学及び岡山短期大学に必要な施設及び設備又はこれらに要する財産、
運用財産とは、岡山学院大学及び岡山短期大学の経営に必要な財産です。

令和 5 年度

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

計算書類

資金収支計算書
資金収支内訳表
人件費支出内訳表
活動区分資金収支計算書
事業活動収支計算書
事業活動収支内訳表
貸借対照表
固定資産明細表
借入金明細表
基本金明細表

学校法人 原田学園

資　金　収　支　計　算　書

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

（単位　円）

収入の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
学生生徒等納付金収入	156,677,500	156,676,080	1,420
授業料収入	105,922,000	105,922,000	0
入学金収入	11,410,000	11,410,000	0
教育充実費収入	24,865,000	24,865,000	0
施設設備費収入	10,965,500	10,965,500	0
学外実習手数料収入	3,515,000	3,513,580	1,420
手数料収入	1,815,000	1,775,400	39,600
入学検定料収入	1,248,000	1,272,000	△ 24,000
試験料収入	317,000	317,000	0
証明手数料収入	250,000	186,400	63,600
寄付金収入	7,160,000	6,588,044	571,956
特別寄付金収入	5,900,000	5,878,044	21,956
一般寄付金収入	1,260,000	710,000	550,000
補助金収入	61,660,000	60,391,400	1,268,600
国庫補助金収入	61,000,000	59,964,100	1,035,900
地方公共団体補助金収入	660,000	427,300	232,700
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	150,000	179,000	△ 29,000
公開講座収入	150,000	179,000	△ 29,000
受取利息・配当金収入	0	0	0
雑収入	4,533,000	3,607,517	925,483
施設設備利用料収入	101,000	103,190	△ 2,190
私立大学退職金財団交付金収入	2,432,000	2,431,400	600
その他の雑収入	2,000,000	1,072,927	927,073
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	25,340,000	25,590,000	△ 250,000
授業料前受金収入	14,900,000	14,900,000	0
入学金前受金収入	5,415,000	5,665,000	△ 250,000
教育充実費前受金収入	3,530,000	3,530,000	0
施設設備費前受金収入	1,495,000	1,495,000	0
その他の収入	165,737,005	165,740,745	△ 3,740
退職給与引当特定資産取崩収入	6,856,055	6,856,755	△ 700
減価償却引当特定資産取崩収入	150,000,000	150,000,000	0
前期末未収入金収入	7,880,950	7,880,950	0
補助活動事業元入金回収収入	1,000,000	1,000,000	0
立替金収入	0	3,040	△ 3,040
資金収入調整勘定	△ 30,679,000	△ 30,795,750	116,750
期末未収入金	△ 1,600,000	△ 1,716,750	116,750
前期末前受金	△ 29,079,000	△ 29,079,000	0
前年度繰越支払資金	100,540,974	100,540,974	
収入の部合計	492,934,479	490,293,410	2,641,069

支出の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
人件費支出	222,200,000	219,893,156	2,306,844
教員人件費支出	152,000,000	151,160,700	839,300
職員人件費支出	65,000,000	63,541,056	1,458,944
役員報酬支出	2,400,000	2,400,000	0
退職金支出	2,800,000	2,791,400	8,600
教育研究経費支出	95,400,000	93,334,125	2,065,875
消耗品費支出	3,500,000	3,217,787	282,213
光熱水費支出	19,000,000	18,655,761	344,239
旅費交通費支出	1,500,000	1,441,225	58,775
奨学費支出	24,170,000	24,164,100	5,900
通信費支出	1,800,000	1,705,340	94,660
印刷製本費支出	1,500,000	1,031,214	468,786
修繕費支出	3,000,000	2,866,222	133,778
損害保険料支出	1,050,000	1,039,678	10,322
会議会合費支出	150,000	143,237	6,763
行事費支出	30,000	27,400	2,600
負担金支出	2,100,000	2,093,280	6,720
リース料支出	1,600,000	1,558,878	41,122
支払報酬手数料支出	30,000,000	29,530,293	469,707
福利費支出	3,050,000	3,032,117	17,883
学外実習費支出	2,900,000	2,819,593	80,407
雑費支出	50,000	8,000	42,000

管理経費支出	72,475,000	67,903,125	4,571,875
消耗品費支出	2,000,000	1,583,449	416,551
光熱水費支出	1,600,000	1,449,306	150,694
旅費交通費支出	1,700,000	1,571,680	128,320
車輌燃料費支出	170,000	147,706	22,294
通信費支出	2,800,000	2,624,088	175,912
印刷製本費支出	6,000,000	5,888,979	111,021
修繕費支出	500,000	456,451	43,549
損害保険料支出	300,000	250,950	49,050
会議会合費支出	140,000	133,502	6,498
公租公課支出	800,000	390,420	409,580
負担金支出	5,000,000	4,528,200	471,800
リース料支出	160,000	155,628	4,372
支払報酬手数料支出	17,000,000	16,599,900	400,100
渉外費支出	1,100,000	1,094,825	5,175
福利費支出	600,000	540,530	59,470
広告費支出	20,000,000	18,495,796	1,504,204
賃借料支出	360,000	352,000	8,000
補助活動事業支出	9,000,000	8,441,685	558,315
私立大学等経常費補助金返還金支出	2,745,000	2,745,000	0
雑費支出	500,000	453,030	46,970
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,000,000	925,100	74,900
建物支出	1,000,000	925,100	74,900
設備関係支出	5,461,880	4,785,196	676,684
教育研究用機器備品支出	3,000,000	2,634,198	365,802
管理用機器備品支出	461,880	461,880	0
図書支出	2,000,000	1,689,118	310,882
資産運用支出	1,000,000	1,000,000	0
補助活動事業元入金支払支出	1,000,000	1,000,000	0
その他の支出	20,853,109	20,839,909	13,200
前期末未払金支払支出	18,189,982	18,189,982	0
預り金支出	2,596,927	2,596,927	0
前払金支払支出	66,200	53,000	13,200
〔予備費〕	(2,658,807) 17,341,193		17,341,193
資金支出調整勘定	△ 11,156,200	△ 11,451,464	295,264
期末未払金	△ 11,000,000	△ 11,295,264	295,264
前期末前払金	△ 156,200	△ 156,200	0
翌年度繰越支払資金	68,359,497	93,064,263	△ 24,704,766
支出の部合計	492,934,479	490,293,410	2,641,069

注1　予備費の使用額

設備関係支出の管理用機器備品支出	61,880
その他の支出の預り金支出	2,596,927
合　　計	2,658,807 円

資金収支計算書とは、当該会計年度における学校法人全体の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。
当該会計年度の資金収入のうち前期末前受金及び期末未収入金は、収入の部の控除科目として、収入の部に計上しています。また、資金支出のうち前期末前払金及び期末未払金は、支出の部の控除科目として、支出の部に計上しています。

令和5年度決算において、収入の部では、特定資産の取崩収入を除くと、学生生徒等納付金収入の1億5667万6080円、補助金収入の6039万1400円及び前受金収入の2559万円が収入の大半を占めています。
また、支出の部では、人件費支出の2億1989万3156円、教育研究経費支出の9333万4125円、管理経費支出の6790万3125円が大きな割合を占めています。

資 金 収 支 内 訳 表

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

収 入 の 部

（単位　円）

部門 / 科目	学校法人	岡山学院大学 人間生活学部	岡山短期大学 幼児教育学科	総額
学生生徒等納付金収入	0	78,906,180	77,769,900	156,676,080
授業料収入	0	55,346,000	50,576,000	105,922,000
入学金収入	0	4,000,000	7,410,000	11,410,000
教育充実費収入	0	12,640,000	12,225,000	24,865,000
施設設備費収入	0	6,320,000	4,645,500	10,965,500
学外実習手数料収入	0	600,180	2,913,400	3,513,580
手数料収入	0	690,700	1,084,700	1,775,400
入学検定料収入	0	456,000	816,000	1,272,000
試験料収入	0	175,000	142,000	317,000
証明手数料収入	0	59,700	126,700	186,400
寄付金収入	0	3,198,574	3,389,470	6,588,044
特別寄付金収入	0	2,903,754	2,974,290	5,878,044
一般寄付金収入	0	294,820	415,180	710,000
補助金収入	0	33,619,400	26,772,000	60,391,400
国庫補助金収入	0	33,330,900	26,633,200	59,964,100
地方公共団体補助金収入	0	288,500	138,800	427,300
資産売却収入	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	0	36,000	143,000	179,000
公開講座収入	0	36,000	143,000	179,000
受取利息・配当金収入	0	0	0	0
雑収入	830,600	1,777,218	999,699	3,607,517
施設設備利用料収入	12,000	45,048	46,142	103,190
私立大学退職金財団交付金収入	814,600	1,266,200	350,600	2,431,400
その他の雑収入	4,000	465,970	602,957	1,072,927
借入金等収入	0	0	0	0
計	830,600	118,228,072	110,158,769	229,217,441

支 出 の 部

（単位　円）

部門 / 科目	学校法人	岡山学院大学 人間生活学部	岡山短期大学 幼児教育学科	総額
人件費支出	8,740,930	124,016,411	87,135,815	219,893,156
教員人件費支出	0	99,504,398	51,656,302	151,160,700
職員人件費支出	5,236,330	23,245,813	35,058,913	63,541,056
役員報酬支出	2,400,000	0	0	2,400,000
退職金支出	1,104,600	1,266,200	420,600	2,791,400
教育研究経費支出	0	46,062,142	47,271,983	93,334,125
消耗品費支出	0	2,090,060	1,127,727	3,217,787
光熱水費支出	0	9,641,431	9,014,330	18,655,761
旅費交通費支出	0	705,334	735,891	1,441,225
奨学費支出	0	10,616,900	13,547,200	24,164,100
通信費支出	0	792,218	913,122	1,705,340
印刷製本費支出	0	540,438	490,776	1,031,214
修繕費支出	0	1,561,615	1,304,607	2,866,222
損害保険料支出	0	538,482	501,196	1,039,678
会議会合費支出	0	69,802	73,435	143,237
行事費支出	0	13,536	13,864	27,400
負担金支出	0	1,397,653	695,627	2,093,280
リース料支出	0	1,165,628	393,250	1,558,878
支払報酬手数料支出	0	14,790,314	14,739,979	29,530,293
福利費支出	0	1,675,545	1,356,572	3,032,117
学外実習費支出	0	455,186	2,364,407	2,819,593
雑費支出	0	8,000	0	8,000

管理経費支出	7,024,158	30,969,145	29,909,822	67,903,125
消耗品費支出	0	799,582	783,867	1,583,449
光熱水費支出	7,764	712,122	729,420	1,449,306
旅費交通費支出	319,570	618,488	633,622	1,571,680
車輌燃料費支出	0	72,967	74,739	147,706
通信費支出	45,200	1,278,347	1,300,541	2,624,088
印刷製本費支出	0	3,076,136	2,812,843	5,888,979
修繕費支出	0	225,487	230,964	456,451
損害保険料支出	53,000	97,787	100,163	250,950
会議会合費支出	0	65,950	67,552	133,502
公租公課支出	196,820	95,638	97,962	390,420
負担金支出	0	2,242,393	2,285,807	4,528,200
リース料支出	0	76,880	78,748	155,628
支払報酬手数料支出	6,216,340	4,791,351	5,592,209	16,599,900
渉外費支出	185,464	441,241	468,120	1,094,825
福利費支出	0	297,382	243,148	540,530
広告費支出	0	9,596,899	8,898,897	18,495,796
賃借料支出	0	173,888	178,112	352,000
補助活動事業支出	0	4,386,417	4,055,268	8,441,685
私立大学等経常費補助金返還金支出	0	1,803,000	942,000	2,745,000
雑費支出	0	117,190	335,840	453,030
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	0	456,999	468,101	925,100
建物支出	0	456,999	468,101	925,100
設備関係支出	0	3,559,869	1,225,327	4,785,196
教育研究用機器備品支出	0	2,358,834	275,364	2,634,198
管理用機器備品支出	0	228,169	233,711	461,880
図書支出	0	972,866	716,252	1,689,118
計	15,765,088	205,064,566	166,011,048	386,840,702

人 件 費 支 出 内 訳 表

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

（単位　円）

部門 ／ 科目	学校法人	岡山学院大学 人間生活学部	岡山短期大学 幼児教育学科	総額
教員人件費支出	0	99,504,398	51,656,302	151,160,700
本務教員	0	95,239,848	46,309,934	141,549,782
本俸	0	73,215,600	35,805,600	109,021,200
期末手当	0	4,021,141	2,107,275	6,128,416
その他の手当	0	5,012,805	2,453,072	7,465,877
所定福利費	0	9,234,552	4,211,487	13,446,039
私立大学退職金財団負担金	0	3,755,750	1,732,500	5,488,250
兼務教員	0	4,264,550	5,346,368	9,610,918
職員人件費支出	5,236,330	23,245,813	35,058,913	63,541,056
本務職員	5,236,330	23,245,813	35,058,913	63,541,056
本俸	3,585,005	16,405,085	23,783,400	43,773,490
期末手当	239,072	1,144,208	1,921,679	3,304,959
その他の手当	473,063	1,652,671	3,304,861	5,430,595
所定福利費	668,190	2,850,349	4,307,473	7,826,012
私立大学退職金財団負担金	271,000	1,193,500	1,741,500	3,206,000
兼務職員	0	0	0	0
役員報酬支出	2,400,000	0	0	2,400,000
退職金支出	1,104,600	1,266,200	420,600	2,791,400
教員	0	1,266,200	70,000	1,336,200
職員	814,600	0	350,600	1,165,200
役員	290,000	0	0	290,000
計	8,740,930	124,016,411	87,135,815	219,893,156

活 動 区 分 資 金 収 支 計 算 書

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

（単位　円）

			科　　　目	金　　額
教育活動による資金収支	収入		学生生徒等納付金収入	156,676,080
			手数料収入	1,775,400
			特別寄付金収入	5,878,044
			一般寄付金収入	710,000
			経常費等補助金収入	60,391,400
			付随事業収入	179,000
			雑収入	3,607,517
			教育活動資金収入計	229,217,441
	支出		人件費支出	219,893,156
			教育研究経費支出	93,334,125
			管理経費支出	67,903,125
			教育活動資金支出計	381,130,406
	差引			△ 151,912,965
	調整勘定等			△ 2,430,975
	教育活動資金収支差額			△ 154,343,940
施設整備等活動による資金収支			科　　　目	金　　額
	収入		減価償却引当特定資産取崩収入	150,000,000
			施設整備等活動資金収入計	150,000,000
	支出		施設関係支出	925,100
			設備関係支出	4,785,196
			施設整備等活動資金支出計	5,710,296
	差引			144,289,704
	調整勘定等			△ 1,450,561
	施設整備等活動資金収支差額			142,839,143
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）				△ 11,504,797
その他の活動による資金収支			科　　　目	金　　額
	収入		退職給与引当特定資産取崩収入	6,856,755
			補助活動事業元入金回収収入	1,000,000
			立替金収入	3,040
			小計	7,859,795
			その他の活動資金収入計	7,859,795
	支出		補助活動事業元入金支払支出	1,000,000
			預り金支出	2,596,927
			小計	3,596,927
			その他の活動資金支出計	3,596,927
	差引			4,262,868
	調整勘定等			△ 234,782
	その他の活動資金収支差額			4,028,086
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）				△ 7,476,711
前年度繰越支払資金				100,540,974
翌年度繰越支払資金				93,064,263

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

（単位　円）

項目	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	25,590,000	25,590,000	0	0
前期末未収入金収入	7,880,950	7,865,950	0	15,000
期末未収入金	△ 1,716,750	△ 1,716,750	0	0
前期末前受金	△ 29,079,000	△ 29,079,000	0	0
収入計	2,675,200	2,660,200	0	15,000
前期末未払金支払支出	18,189,982	15,293,809	1,567,974	1,328,199
前払金支払支出	53,000	53,000	0	0
期末未払金	△ 11,295,264	△ 10,099,434	△ 117,413	△ 1,078,417
前期末前払金	△ 156,200	△ 156,200	0	0
支出計	6,791,518	5,091,175	1,450,561	249,782
収入計　―　支出計	△ 4,116,318	△ 2,430,975	△ 1,450,561	△ 234,782

活動区分資金収支計算書とは、資金収支計算書の決算額を3つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにするものです。

令和5年度決算において、教育活動による資金収支では、収入計が2億2921万7441円、支出計が3億8113万406円となり調整勘定の△243万975円を含めた収支差額は△1億5434万3940円となっています。
施設整備等活動による資金収支では、収入計が1億5000万円、支出計が571万296円となり調整勘定の△145万561円を含めた収支差額は1億4283万9143円となっています。
その他の活動による資金収支では、収入計が785万9795円、支出計が359万6927円となり調整勘定の△23万4782円を含めた収支差額は402万8086円となっています。
すべての活動区分をあわせた支払資金の増減額は△747万6711円で、前年度繰越支払資金とあわせると翌年度繰越支払資金は9306万4263円となります。

事 業 活 動 収 支 計 算 書

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

（単位　円）

		科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	156,677,500	156,676,080	1,420
		授業料	105,922,000	105,922,000	0
		入学金	11,410,000	11,410,000	0
		教育充実費	24,865,000	24,865,000	0
		施設設備費	10,965,500	10,965,500	0
		学外実習手数料	3,515,000	3,513,580	1,420
		手数料	1,815,000	1,775,400	39,600
		入学検定料	1,248,000	1,272,000	△ 24,000
		試験料	317,000	317,000	0
		証明手数料	250,000	186,400	63,600
		寄付金	7,160,000	6,588,044	571,956
		特別寄付金	5,900,000	5,878,044	21,956
		一般寄付金	1,260,000	710,000	550,000
		経常費等補助金	61,660,000	60,391,400	1,268,600
		国庫補助金	61,000,000	59,964,100	1,035,900
		地方公共団体補助金	660,000	427,300	232,700
		付随事業収入	150,000	179,000	△ 29,000
		公開講座収入	150,000	179,000	△ 29,000
		雑収入	11,389,055	10,464,272	924,783
		施設設備利用料	101,000	103,190	△ 2,190
		私立大学退職金財団交付金	2,432,000	2,431,400	600
		退職給与引当金戻入額	6,856,055	6,856,755	△ 700
		その他の雑収入	2,000,000	1,072,927	927,073
		教育活動収入計	238,851,555	236,074,196	2,777,359
	事業活動支出の部	科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
		人件費	222,200,000	219,893,156	2,306,844
		教員人件費	152,000,000	151,160,700	839,300
		職員人件費	65,000,000	63,541,056	1,458,944
		役員報酬	2,400,000	2,400,000	0
		退職金	2,800,000	2,791,400	8,600
		教育研究経費	179,400,000	176,492,810	2,907,190
		消耗品費	3,500,000	3,217,787	282,213
		光熱水費	19,000,000	18,655,761	344,239
		旅費交通費	1,500,000	1,441,225	58,775
		奨学費	24,170,000	24,164,100	5,900
		通信費	1,800,000	1,705,340	94,660
		印刷製本費	1,500,000	1,031,214	468,786
		修繕費	3,000,000	2,866,222	133,778
		損害保険料	1,050,000	1,039,678	10,322
		会議会合費	150,000	143,237	6,763
		行事費	30,000	27,400	2,600
		負担金	2,100,000	2,093,280	6,720
		リース料	1,600,000	1,558,878	41,122
		支払報酬手数料	30,000,000	29,530,293	469,707
		福利費	3,050,000	3,032,117	17,883
		学外実習費	2,900,000	2,819,593	80,407
		雑費	50,000	8,000	42,000
		減価償却額	84,000,000	83,158,685	841,315

			予算	決算	差異
		管理経費	83,475,000	78,079,491	5,395,509
		消耗品費	2,000,000	1,583,449	416,551
		光熱水費	1,600,000	1,449,306	150,694
		旅費交通費	1,700,000	1,571,680	128,320
		車輌燃料費	170,000	147,706	22,294
		通信費	2,800,000	2,624,088	175,912
		印刷製本費	6,000,000	5,888,979	111,021
		修繕費	500,000	456,451	43,549
		損害保険料	300,000	250,950	49,050
		会議会合費	140,000	133,502	6,498
		公租公課	800,000	390,420	409,580
		負担金	5,000,000	4,528,200	471,800
		リース料	160,000	155,628	4,372
		支払報酬手数料	17,000,000	16,599,900	400,100
		渉外費	1,100,000	1,094,825	5,175
		福利費	600,000	540,530	59,470
		広告費	20,000,000	18,495,796	1,504,204
		賃借料	360,000	352,000	8,000
		補助活動事業	9,000,000	8,450,172	549,828
		私立大学等経常費補助金返還金	2,745,000	2,745,000	0
		雑費	500,000	453,030	46,970
		減価償却額	11,000,000	10,167,879	832,121
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	485,075,000	474,465,457	10,609,543
	教育活動収支差額		△ 246,223,445	△ 238,391,261	△ 7,832,184
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	0	0	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	0	0	0
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		0	0	0
経常収支差額			△ 246,223,445	△ 238,391,261	△ 7,832,184
特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	1,500,000	1,489,459	10,541
		現物寄付	1,500,000	1,489,459	10,541
		特別収入計	1,500,000	1,489,459	10,541
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	65,000	64,804	196
		設備処分差額	65,000	64,804	196
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	65,000	64,804	196
	特別収支差額		1,435,000	1,424,655	10,345
〔予備費〕			(0) 20,000,000		20,000,000
基本金組入前当年度収支差額			△ 264,788,445	△ 236,966,606	△ 27,821,839
基本金組入額合計			△ 5,000,000	△ 4,395,366	△ 604,634
当年度収支差額			△ 269,788,445	△ 241,361,972	△ 28,426,473
前年度繰越収支差額			△ 3,873,326,802	△ 3,873,326,802	0
基本金取崩額			0	0	0
翌年度繰越収支差額			△ 4,143,115,247	△ 4,114,688,774	△ 28,426,473

（参考）

事業活動収入計	240,351,555	237,563,655	2,787,900
事業活動支出計	505,140,000	474,530,261	30,609,739

事業活動収支計算書とは、当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにするものです。

令和5年度決算において、教育活動収入計が2億3607万4196円、教育活動支出計が4億7446万5457円で教育活動収支差額は△2億3839万1261円となっています。

教育活動外収入計は0円、教育活動外支出計も0円で教育活動外収支差額は0円です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額をあわせた経常収支差額は、△2億3839万1261円となっています。また、特別収支差額は142万4655円です。

すべての活動区分をあわせた事業活動収入計は2億3756万3655円、事業活動支出計は4億7453万261円で、2億3696万6606円の支出超過となっています。

事 業 活 動 収 支 内 訳 表

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

（単位　円）

科目		部門	学 校 法 人	岡山学院大学	岡山短期大学	総　　額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	0	78,906,180	77,769,900	156,676,080
		授業料	0	55,346,000	50,576,000	105,922,000
		入学金	0	4,000,000	7,410,000	11,410,000
		教育充実費	0	12,640,000	12,225,000	24,865,000
		施設設備費	0	6,320,000	4,645,500	10,965,500
		学外実習手数料	0	600,180	2,913,400	3,513,580
		手数料	0	690,700	1,084,700	1,775,400
		入学検定料	0	456,000	816,000	1,272,000
		試験料	0	175,000	142,000	317,000
		証明手数料	0	59,700	126,700	186,400
		寄付金	0	3,198,574	3,389,470	6,588,044
		特別寄付金	0	2,903,754	2,974,290	5,878,044
		一般寄付金	0	294,820	415,180	710,000
		経常費等補助金	0	33,619,400	26,772,000	60,391,400
		国庫補助金	0	33,330,900	26,633,200	59,964,100
		地方公共団体補助金	0	288,500	138,800	427,300
		付随事業収入	0	36,000	143,000	179,000
		公開講座収入	0	36,000	143,000	179,000
		雑収入	830,600	5,164,455	4,469,217	10,464,272
		施設設備利用料	12,000	45,048	46,142	103,190
		私立大学退職金財団交付金	814,600	1,266,200	350,600	2,431,400
		退職給与引当金戻入額	0	3,387,237	3,469,518	6,856,755
		その他の雑収入	4,000	465,970	602,957	1,072,927
		教育活動収入計	830,600	121,615,309	113,628,287	236,074,196
	事業活動支出の部	人件費	8,740,930	124,016,411	87,135,815	219,893,156
		教員人件費	0	99,504,398	51,656,302	151,160,700
		職員人件費	5,236,330	23,245,813	35,058,913	63,541,056
		役員報酬	2,400,000	0	0	2,400,000
		退職金	1,104,600	1,266,200	420,600	2,791,400
		教育研究経費	0	87,142,532	89,350,278	176,492,810
		消耗品費	0	2,090,060	1,127,727	3,217,787
		光熱水費	0	9,641,431	9,014,330	18,655,761
		旅費交通費	0	705,334	735,891	1,441,225
		奨学費	0	10,616,900	13,547,200	24,164,100
		通信費	0	792,218	913,122	1,705,340
		印刷製本費	0	540,438	490,776	1,031,214
		修繕費	0	1,561,615	1,304,607	2,866,222
		損害保険料	0	538,482	501,196	1,039,678
		会議会合費	0	69,802	73,435	143,237
		行事費	0	13,536	13,864	27,400
		負担金	0	1,397,653	695,627	2,093,280
		リース料	0	1,165,628	393,250	1,558,878
		支払報酬手数料	0	14,790,314	14,739,979	29,530,293
		福利費	0	1,675,545	1,356,572	3,032,117
		学外実習費	0	455,186	2,364,407	2,819,593
		雑費	0	8,000	0	8,000
		減価償却額	0	41,080,390	42,078,295	83,158,685

		管理経費	7,024,158	35,996,270	35,059,063	78,079,491
		消耗品費	0	799,582	783,867	1,583,449
		光熱水費	7,764	712,122	729,420	1,449,306
		旅費交通費	319,570	618,488	633,622	1,571,680
		車輌燃料費	0	72,967	74,739	147,706
		通信費	45,200	1,278,347	1,300,541	2,624,088
		印刷製本費	0	3,076,136	2,812,843	5,888,979
		修繕費	0	225,487	230,964	456,451
		損害保険料	53,000	97,787	100,163	250,950
		会議会合費	0	65,950	67,552	133,502
		公租公課	196,820	95,638	97,962	390,420
		負担金	0	2,242,393	2,285,807	4,528,200
		リース料	0	76,880	78,748	155,628
		支払報酬手数料	6,216,340	4,791,351	5,592,209	16,599,900
		渉外費	185,464	441,241	468,120	1,094,825
		福利費	0	297,382	243,148	540,530
		広告費	0	9,596,899	8,898,897	18,495,796
		賃借料	0	173,888	178,112	352,000
		補助活動事業	0	4,390,610	4,059,562	8,450,172
		私立大学等経常費補助金返還金	0	1,803,000	942,000	2,745,000
		雑費	0	117,190	335,840	453,030
		減価償却額	0	5,022,932	5,144,947	10,167,879
		徴収不能額等	0	0	0	0
		教育活動支出計	15,765,088	247,155,213	211,545,156	474,465,457
	教育活動収支差額		△ 14,934,488	△ 125,539,904	△ 97,916,869	△ 238,391,261
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	0	0	0	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	0	0	0	0
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0
	教育活動外収支差額		0	0	0	0
経常収支差額			△ 14,934,488	△ 125,539,904	△ 97,916,869	△ 238,391,261
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	0	881,525	607,934	1,489,459
		現物寄付	0	881,525	607,934	1,489,459
		特別収入計	0	881,525	607,934	1,489,459
	事業活動支出の部	資産処分差額	0	32,013	32,791	64,804
		設備処分差額	0	32,013	32,791	64,804
		その他の特別支出	0	0	0	0
		特別支出計	0	32,013	32,791	64,804
	特別収支差額		0	849,512	575,143	1,424,655
基本金組入前当年度収支差額			△ 14,934,488	△ 124,690,392	△ 97,341,726	△ 236,966,606
基本金組入額合計			△ 0	△ 2,171,311	△ 2,224,055	△ 4,395,366
当年度収支差額			△ 14,934,488	△ 126,861,703	△ 99,565,781	△ 241,361,972

（参考）

事業活動収入計	830,600	122,496,834	114,236,221	237,563,655
事業活動支出計	15,765,088	247,187,226	211,577,947	474,530,261

貸　借　対　照　表

令和6年3月31日

（単位　円）

資産の部			
科　　　　　目	本　年　度　末	前　年　度　末	増　　　減
固定資産	3,412,453,539	3,655,501,907	△ 243,048,368
有形固定資産	2,986,421,017	3,072,423,322	△ 86,002,305
土　地	365,679,574	365,679,574	0
建　物	2,088,969,718	2,173,687,048	△ 84,717,330
構　築　物	2,371,995	3,230,733	△ 858,738
教育研究用機器備品	59,792,103	61,578,078	△ 1,785,975
管理用機器備品	22,232,089	22,595,528	△ 363,439
図　書	447,375,534	445,652,357	1,723,177
車　輌	4	4	0
特定資産	423,098,898	579,955,653	△ 156,856,755
退職給与引当特定資産	128,130,012	134,986,767	△ 6,856,755
減価償却引当特定資産	294,968,886	444,968,886	△ 150,000,000
その他の固定資産	2,933,624	3,122,932	△ 189,308
電話加入権	2,924,514	2,924,514	0
施設利用権	0	189,308	△ 189,308
預　託　金	9,110	9,110	0
流動資産	96,221,548	109,977,186	△ 13,755,638
現金預金	93,064,263	100,540,974	△ 7,476,711
未収入金	1,716,750	7,880,950	△ 6,164,200
販売用品	1,387,535	1,396,022	△ 8,487
前　払　金	53,000	156,200	△ 103,200
立　替　金	0	3,040	△ 3,040
資産の部合計	3,508,675,087	3,765,479,093	△ 256,804,006

負債の部			
科　　　　　目	本　年　度　末	前　年　度　末	増　　　減
固定負債	129,256,423	137,451,562	△ 8,195,139
長期未払金	1,126,411	2,464,795	△ 1,338,384
退職給与引当金	128,130,012	134,986,767	△ 6,856,755
流動負債	44,531,022	56,173,283	△ 11,642,261
未　払　金	12,633,648	18,189,982	△ 5,556,334
前　受　金	25,590,000	29,079,000	△ 3,489,000
預　り　金	6,307,374	8,904,301	△ 2,596,927
負債の部合計	173,787,445	193,624,845	△ 19,837,400

純資産の部			
科　　　　　目	本　年　度　末	前　年　度　末	増　　　減
基本金	7,449,576,416	7,445,181,050	4,395,366
第1号基本金	7,413,576,416	7,409,181,050	4,395,366
第4号基本金	36,000,000	36,000,000	0
繰越収支差額	△ 4,114,688,774	△ 3,873,326,802	△ 241,361,972
翌年度繰越収支差額	△ 4,114,688,774	△ 3,873,326,802	△ 241,361,972
純資産の部合計	3,334,887,642	3,571,854,248	△ 236,966,606
負債及び純資産の部合計	3,508,675,087	3,765,479,093	△ 256,804,006

１．重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

① 徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため，個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

② 退職給与引当金

退職金の支給に備えるため，期末要支給額を基にして，私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100％を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

① 有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法に基づく原価法である。

③ 預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金及び立替金に係る収入と支出は相殺して表示している。

④ 食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法

補助活動に係る収支は純額で表示している。

２．重要な会計方針の変更等　　　なし

３．減価償却額の累計額の合計額　　　4,426,813,093 円

４．徴収不能引当金の合計額　　　0 円

５．担保に供されている資産の種類及び額　　　なし

６．翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

2,582,208 円

７．当該会計年度の末日において第４号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第４号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

８．その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

純額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

（単位　円）

支　　出	金　額	収　　入	金　額
管理経費支出	10,893,716	補助活動収入	2,452,031
計	10,893,716	計	2,452,031
純　額	8,441,685		

貸借対照表とは、決算日（3月31日）現在における学校法人の資産および負債・純資産（基本金・繰越収支差額）の内容や構成バランスを表しています。

令和5年度決算において、資産の部の有形固定資産は、土地、建物、構築物、備品等の合計29億8642万1017円が計上されています。特定資産は、退職給与引当特定資産と減価償却引当特定資産の合計4億2309万8898円が計上されています。その他の固定資産は、電話加入権等の293万3624円が計上されています。流動資産には、現金預金等9622万1548円が計上されており、資産総額は35億867万5087円となっております。

負債の部の固定負債は、退職給与引当金等の合計1億2925万6423円が計上されています。流動負債は、授業料等の前受金等の合計4453万1022円が計上されており、負債総額は1億7378万7445円となっております。

純資産の部の基本金は、第1号基本金（自己資金で取得した基本金設定の対象となる資産）74億1357万6416円と、第4号基本金（恒常的に保持すべき資金の額）3600万円の合計74億4957万6416円が計上されています。繰越収支差額は、事業活動支出超過額の累計額41億1468万8774円が計上されています。

固　定　資　産　明　細　表

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

（単位　円）

科　目		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却額の累計額	差引期末残高	摘要
有形固定資産	土地	365,679,574	0	0	365,679,574		365,679,574	
	建物	4,968,057,596	925,100	0	4,968,982,696	2,880,012,978	2,088,969,718	
	構築物	333,177,604	0	0	333,177,604	330,805,609	2,371,995	
	教育研究用機器備品	1,173,943,026	4,089,598	4,057,650	1,173,974,974	1,114,182,871	59,792,103	注1
	管理用機器備品	106,241,097	461,880	197,300	106,505,677	84,273,588	22,232,089	
	図書	445,652,357	1,723,177	0	447,375,534	0	447,375,534	注2
	車輌	14,027,310	0	0	14,027,310	14,027,306	4	
	計	7,406,778,564	7,199,755	4,254,950	7,409,723,369	4,423,302,352	2,986,421,017	
特定資産	退職給与引当特定資産	134,986,767	0	6,856,755	128,130,012	0	128,130,012	
	減価償却引当特定資産	444,968,886	0	150,000,000	294,968,886	0	294,968,886	注3
	計	579,955,653	0	156,856,755	423,098,898	0	423,098,898	
その他の固定資産	電話加入権	2,924,514	0	0	2,924,514	0	2,924,514	
	施設利用権	3,510,741	0	0	3,510,741	3,510,741	0	
	預託金	9,110	0	0	9,110	0	9,110	
	計	6,444,365	0	0	6,444,365	3,510,741	2,933,624	
合計		7,993,178,582	7,199,755	161,111,705	7,839,266,632	4,426,813,093	3,412,453,539	

注1　当期増加　購入教育研究用機器備品　2,634,198 円
　　　　　　　寄贈教育研究用機器備品　1,455,400 円

注2　当期増加　購入図書　1,689,118 円
　　　　　　　寄贈図書　34,059 円

注3　当期減少　特定資産から現金預金に振替　150,000,000 円

借　入　金　明　細　表

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

（単位　円）

借入先			期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	利率	返済期限	摘要
長期借入金	公的金融機関					0			
		小計	0	0	0	0			
	市中金融機関								
		小計	0	0	0	0			
	その他								
		小計	0	0	0	0			
	計		0	0	0	0			
短期借入金	公的金融機関								
		小計	0	0	0	0			
	市中金融機関								
		小計	0	0	0	0			
	その他								
		小計	0	0	0	0			
	返済期限が1年以内の長期借入金		0	0	0	0			
	計		0	0	0	0			
合計			0	0	0	0			

基 本 金 明 細 表

令和 5年4月 1日から
令和 6年3月31日まで

（単位　円）

事　　　項	要 組 入 高	組　入　高	未 組 入 高	摘　要
第1号基本金				
前期繰越高	7,413,213,819	7,409,181,050	4,032,769	
当期組入高				
１．建物				
購買移設間仕切設置工事に係る組入れ	925,100	925,100		
過年度未組入れに係る当期組入れ				
建物に係る未払金支払に伴う組入れ		1,039,764	△ 1,039,764	
小　　計	925,100	1,964,864	△ 1,039,764	
２．教育研究用機器備品				
機器備品の購入に係る組入れ	2,634,198	31,948		
機器備品の現物寄付に係る組入れ	1,455,400			
除却した機器備品に係る基本金額	△ 4,057,650			
過年度未組入れに係る当期組入れ				
機器備品に係る未払金支払に伴う組入れ		511,920	△ 511,920	
小　　計	31,948	543,868	△ 511,920	
３．管理用機器備品				
機器備品の購入に係る組入れ	461,880	166,780	97,800	
除却した機器備品に係る基本金額	△ 197,300			
小　　計	264,580	166,780	97,800	
４．図書				
図書の購入に係る組入れ	1,689,118	1,703,564	19,613	
図書の現物寄付に係る組入れ	34,059			
過年度未組入れに係る当期組入れ				
図書に係る未払金支払に伴う組入れ		16,290	△ 16,290	
小　　計	1,723,177	1,719,854	3,323	
計	2,944,805	4,395,366	△ 1,450,561	
当期末残高	7,416,158,624	7,413,576,416	2,582,208	
第4号基本金				
前期繰越高	36,000,000	36,000,000	0	
当期末残高	36,000,000	36,000,000	0	
合計				
前期繰越高	―――	7,445,181,050	4,032,769	
当期組入高	―――	4,395,366		
当期末残高	―――	7,449,576,416	2,582,208	

令和5年度事業報告書

1　法人の概要

（1）基本情報

①学校法人原田学園

②岡山県倉敷市有城 787 番地 086-428-2651 086-429-0323 https://owc.ac.jp

（2）建学の精神

建学の精神は、本学の創立者である原田林市初代理事長・学長が大正 13 年に岡山県浅口郡鴨方町六条院に設立した「岡山県生石高等女学校」の建学の精神、教育三綱領「自律創生、信念貫徹、共存共栄」を継承し、本学公式ウェブサイトにおいて次のように示し、学内外に表明している。

教育三綱領（1924 年制定） 創立者がその私学で養成する人物像を示したものが「建学の精神」です。 岡山学院大学・岡山短期大学の建学の精神は、「教育三綱領」です。 教育三綱領を基に、岡山学院大学では管理栄養士、そして岡山短期大学では保育者を育成します。 「自律創生」 　道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。 「信念貫徹」 　目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。 「共存共栄」 　社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。 　この教育三綱領の意味は「人間は信念をもって生きるものであり、信念のない人間は舵のない船のようなものである。信念とは人間の生きる道であり、道は道路と同じで、必ず踏み行わなければならず、道を行かなければけがをし、あやまちをする。信念をもって如何なることがあろうとも道をはずさず生きるとの信念を徹底しなければならない。そして、この道は人間により拓かれ、道徳的理想に向かって人間の本務を体得するもので、価値としての自我の創造につとめるとともに校風の発展に努力し、更にはその道によって世界の人間と交流し、日本国民としての自覚をもって世界の平和に貢献せよ。」ということです。

（3）法人の沿革

昭和 25 年 12 月	学校法人原田学園設置認可(岡山県山陽中学校・岡山県山陽高等学校)
昭和 26 年 2 月	岡山県浅口郡鴨方町に岡山女子短期大学(家政科 入学定員 80 名)を開設
昭和 28 年 4 月	岡山県山陽中学校休校
昭和 31 年 4 月	岡山女子短期大学附設幼稚園教員養成所(入学定員 20 名)を附設
昭和 33 年 4 月	保育科(定員 40 名)を増設
昭和 34 年 3 月	附設幼稚園教員養成所を廃止
昭和 38 年 4 月	栄養科(定員 40 名)を増設
昭和 39 年 4 月	保育科定員増(定員 50 名)、栄養科定員増(定員 60 名)
昭和 40 年 4 月	栄養科定員増(定員 80 名)
昭和 43 年 4 月	保育科定員増(定員 100 名)、栄養科を食物栄養科とし、定員増(定員 100 名)
昭和 45 年 4 月	家政科を家政学科、食物栄養科を食物栄養学科、保育科を幼児教育学科と改める
昭和 45 年 11 月	倉敷市有城に校地を取得
昭和 47 年 10 月	家政学科、食物栄養学科を倉敷に移転
昭和 49 年 4 月	学校法人原田学園経営の岡山県山陽高等学校を寄附行為変更により、新設の学校法人第一原田学園に移管
昭和 51 年 4 月	幼児教育学科定員増(定員 150 名)
昭和 53 年 4 月	幼児教育学科を倉敷に移転
昭和 59 年 12 月	ｶﾅﾀﾞ BC 州立ﾏﾗｽﾋﾟﾅｶﾚｯｼﾞ(現ｶﾅﾀﾞ BC 州立ﾊﾞﾝｸｰﾊﾞｰ･ｱｲﾗﾝﾄﾞ･ﾕﾆﾊﾞｰｼﾃｨ)と姉妹校提携する
昭和 60 年 12 月	英語科(定員 100 名)設置認可

昭和 61 年　4 月　岡山県山陽中学校廃止､家政学科定員減(定員 50 名)
昭和 61 年　4 月　英語科(定員 100)を増設
平成元年　4 月　家政学科の名称を生活情報学科に変更
平成　3 年　4 月　食物栄養学科期間付定員増(定員 150 名)､英語科期間付定員増(定員 150 名)
平成　9 年　4 月　専攻科食物栄養学専攻が学位授与機構の認定を受ける
平成 10 年　4 月　専攻科食物栄養学専攻が 3 年制栄養士養成施設の指定を受ける
平成 11 年　6 月　平成 12 年 4 月 1 日より｢岡山短期大学｣に名称変更認可
平成 12 年　4 月　校名を｢岡山短期大学｣に変更し男女共学とする
食物栄養学科及び英語科の期間付入学定員を期間終了により解消
平成 13 年 12 月　岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)
及び生活情報ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科(定員 100)設置認可
平成 14 年 1 月　岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)が管理栄養士養成施設の指定認可を受ける
平成 14 年 4 月　岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)
及び生活情報ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科(定員 100)新設
平成 14 年 4 月　岡山短期大学生活情報学科(定員 50)､
食物栄養学科(定員 100)及び英語科(定員 100)の学生募集を停止する
平成 15 年 3 月　岡山短期大学生活情報学科(定員 50)､英語科(定員 100)を廃止する
平成 16 年 3 月　岡山短期大学食物栄養学科(定員 100)を廃止する
平成 16 年 4 月　岡山学院大学人間生活学部生活情報ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科の名称を人間情報学科に変更
平成 18 年 3 月　岡山短期大学が財団法人短期大学基準協会の第三者評価により適格認定を受ける
平成 19 年 4 月　岡山学院大学人間生活学部人間情報学科(定員 100)の学生募集を停止する
平成 19 年 4 月　岡山学院大学ｷｬﾘｱ実践学部ｷｬﾘｱ実践学科(定員 40)開設
平成 22 年 3 月　岡山学院大学人間生活学部人間情報学科(定員 100)を廃止する
平成 22 年 4 月　岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科入学定員を 100 名から 40 名に変更
平成 22 年 4 月　岡山短期大学幼児教育学科入学定員を 150 名から 100 名に変更
平成 22 年 4 月　岡山学院大学ｷｬﾘｱ実践学部ｷｬﾘｱ実践学科(定員 40)の学生募集を停止する
平成 23 年 3 月　岡山学院大学が財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価の認定を受ける
平成 25 年 3 月　岡山短期大学が一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価により第 2 評価期間の適格認定を受ける
平成 25 年 3 月　岡山学院大学ｷｬﾘｱ実践学部ｷｬﾘｱ実践学科を廃止する
平成 30 年 3 月　岡山学院大学が公益財団法人日本高等教育評価機構の平成 29 年度大学機関別認証評価による第 2 評価期間の認定を受ける
平成 31 年 1 月　岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科の教職課程（栄養教諭一種免許状）が再課程認定を受ける
岡山短期大学幼児教育学科の教職課程（幼稚園教諭二種免許状）が再課程認定を受ける
令和 2 年 3 月　岡山短期大学が一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価により第 3 評価期間の適格認定を受ける
令和 2 年 4 月　原田学園寄附行為の変更が令和 2 年 2 月 12 日付元文科高第 940 号にて認可され令和 2 年 4 月 1 日付で施行した。
令和 4 年 12 月　岡山短期大学幼児教育学科入学定員を 100 名から 70 名に変更
令和 5 年 12 月　岡山短期大学幼児教育学科入学定員を 70 名から 40 名に変更

（4）設置する学校・学部・学科等
岡山学院大学　人間生活学部　食物栄養学科

岡山短期大学　幼児教育学科

・学年・学期・休業日
学年
４月１日～翌年３月３１日
学期
前　期　４月１日～９月１０日
後　期　９月１１日～翌年３月３１日
休業日
国民の祝日に関する法律に規定する休日
日曜日
春期休業　３月２１日～３月３１日
夏期休業　８月１日～９月１０日
冬期休業　１２月２２日～翌年１月７日

（５）学校・学部・学科等の学生数の状況（令和 5 年 5 月 1 日現在）

学　校　名	学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現員	充足率	備　考
岡山学院大学	人間生活学部 食物栄養学科	年度 H14	人 40	人 11	人 160	人 81		編入学者数 4
岡山短期大学	幼児教育学科	年度 S33	人 70	人 38	人 140	人 83		

（６）収容定員充足率
(毎年度 5 月 1 日現在)

学校名	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
岡山学院大学	0.71	0.61	0.66	0.64	0.51
岡山短期大学	0.54	0.40	0.48	0.48	0.59

（７）役員の概要
・役員・教職員の概要（令和 5 年 7 月 1 日現在）
理事総数 6 名（定数 5～7 名）学内 4 名、学外 2 名

氏名	就任年月日	重任年月日	常勤・非常勤	業務執行・非業務執行	主な現職
原田博史	S61.4.1	R4.4.1	常勤	業務執行	理事長・学長
尾崎　聡	H27.3.25	R4.4.1	常勤	業務執行	岡山短期大学主任教授
作永大樹	R5.3.29		常勤	業務執行	事務部長代理・経理課長
原田俊孝	R4.4.1		常勤	業務執行	副理事長・副学長
林　伸雄	H31.1.9	R4.4.1	非常勤	非業務執行	医師
高橋利英	R5.5.31		非常勤	非業務執行	税理士

・責任免除・責任限定契約・保証契約・役員賠償責任保険契約の状況（令和 5 年 5 月 1 日現在）
いずれもなし

監事総数 2 名（定数 2 名）学外 2 名

氏名	就任年月日	重任年月日	常勤・非常勤
小野　聡	H26.7.30	R4.4.1	非常勤
三宅俊弘	H28.7.6	R4.4.1	非常勤

（８）評議員の概要（令和５年７月１日現在）

評議員総数 15 名（定数 15 名～20 名）

氏名	就任年月日	重任年月日
高槻悦子	R5.4.1	
尾崎　聡	H22.4.1	R4.4.1
川口貴子	R5.4.1	
作永大樹	R4.4.1	
原田俊孝	H25.3.27	R4.4.1
中塚志津子	S49.4.1	R4.4.1
森上敏子	H22.4.1	R4.4.1
林　伸雄	H31.1.9	R4.4.1
原田博史	S61.4.1	R4.4.1
藤原雅美	R5.5.31	R4.4.1
川野晃子	R1.5.29	
虫上比美子	R2.5.27	R4.4.1
原田了子	R5.5.31	R4.4.1
岡本　定	H21.3.26	R4.4.1
高橋利英	H28.7.6	R4.4.1

（９）教職員の概要（令和５年５月１日現在）

専任教職員数（人）

	法人	岡山学院大学	岡山短期大学	合計
専任教育職員		16	11	27
専任事務職員	1	6	7	14

兼担及び非常勤教員数（人）

	岡山学院大学	岡山短期大学
兼担教員	6	3
非常勤教員	9	10

２　事業の概要

（１）主な教育・研究の概要

岡山学院大学

岡山学院大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生:道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹:目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄:社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、21世紀の我が国の少子高齢化の時代において、15歳から65歳までの生産年齢人口の縮小を抑止するために、国民一人一人の健康維持及び増進をはかり、我が国の労働生産力の向上に寄与する Society 5.0 時代の人材を本学の「人間教育」と免許・資格を取得する「技術・技能教育」をもって育成することである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、管理栄養士養成の教育目標を達成することを使命とする。

人間生活学部食物栄養学科の教育目標

人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得し、健康寿命延伸・QOL 向上のための栄養の指導を行う専門家を育成する。

４年間じっくり学ぶことで、栄養士免許を取得するとともに、管理栄養士の国家試験受験資格を得る。管理栄養士とは、「人」の健康の維持増進をはかるための栄養の指導に携わる専門家である。高齢化が進むこれからの社会にあってはチーム医療のスタッフとして大いに期待され、また、食品技術系の企業においても、管理栄養士に人材ニーズが高まっている。食物栄養学科では将来、こうした栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士を育てるために次の教育目標を掲げている。

① 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
② 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
③ 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
④ 人材ニーズが高まっている食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成
⑤ 学校における食に関する指導の目標、食に関する指導の全体計画、各教科等や給食における食に関する指導方法を修得し、管理栄養士として学んだことを学校教育の現場で生かすことができる栄養教諭の育成

※ Society 5.0 とは(内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)である。

狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画(平成 28～令和 2 年度)において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。 Society 5.0 で実現する社会は

IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。

また、人工知能(AI)により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。

社会の変革(イノベーション)を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となる。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。

Society 5.0 時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるために、学科の教育課程(基礎教育科目および専門教育科目)の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

Ⅰ. 専門的学習成果

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、専門知識と専門的能力を獲得する。

①多様な専門領域に関する基本となる専門的知識を獲得する。

②チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を獲得する。

③公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力を獲得する。
④健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。
⑤子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、食に関する指導（学校における食育）をする能力を獲得する。

Ⅱ. 汎用的学習成果

基礎教育科目の学習をとおして、
①基礎的な知識から新しい知識・健康関連データを創造する力や新食品開発企画力や研究開発力など栄養学分野の基本的な能力と知識を現代の諸問題と関連づけて展開できるクリエイティブ力を獲得する。
②数量的スキルや ICT リテラシーで Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、円滑なチームワーク、リーダーシップ、対人コミュニケーションで、Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、個人のヘルスプランを創案し、健康改善につなげるマネジメント力を獲得する。
③心身のサポートや精神的にケアする力、健康づくりをサポートするために信頼される社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理力などのホスピタリティ力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位：学士（栄養学）

Society 5.0 時代の現場に即応できる管理栄養士になるため、基礎教育科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。
卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。
1.　学位授与に必要な単位を修得している。
2.　卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度（心構え）や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得している。

尚、単位認定は科目の成績評価を基礎として単位認定の教授会において、学習成果を基準に判定する。

教育課程編成・実施の方針

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための専門教育科目を編成し、実施する。
また、同時に「食品衛生資格履修コース」を専門教育科目の中に科目指定し、実施する。
栄養教諭一種免許状を得るための教職課程を編成し、実施する。
Society 5.0 時代に求める 3 つの力を汎用的学習成果として獲得させる基礎教育科目にクリエイティブ力基礎科目群、マネジメント力基礎科目群及びホスピタリティ力基礎科目群を編成し、実施する。
希望者に対して、フードスペシャリスト資格認定証、専門フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書などが取得できるサブカリキュラムも編成し、実施する。

入学者受入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。
・栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士の仕事を理解している。
・卒業後、管理栄養士として働く意思が強い。
・Society 5.0 時代に必要なスキルの修得意識が強い。
・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
・生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

岡山短期大学

岡山短期大学の建学の精神「教育三綱領」は、
　自律創生：道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。
　信念貫徹：目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。
　共存共栄：社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。
であり、教育理念は、岡山短期大学の教育理念は、学生一人ひとりが強い信念をもち、それぞれが志した学習目標を達成し、本学で修得した知識、技能および免許・資格を活かした進路を確実に得、本学および社会の発展に寄与する人材を育てることである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、保育者養成の教育目標を達成することを使命とする。

幼児教育学科の教育目標

　幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う

教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・１歳以上３歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる保育者を養成する。
本学科の保育者養成の教育目標
① Society 5.0 時代の AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成する。
② 幼児教育において育みたい「資質・能力」の三つの柱「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」を育成することのできる保育者を養成する。
③ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿）「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことに向けて指導ができる保育者を養成する。
④ すべての子どもが安心して過ごせるよう、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの生活状況や実態に合わせて気持ちが前向きになるよう満たすような働きかける養護と幼児教育を一体的に展開するために、保育の実際を評価し保育を改善し続けることができる保育者を養成する。

更に、卒業後の目標として、次の、公務員となる公務員養成コース、及び Society 5.0 時代の保育者となる Society 5.0 保育者養成コースを設ける。

公務員養成コース
基礎教育科目の「公務員講座 (A)」「公務員講座 (B)」で公務員試験出題科目を集中的に学習すると共に、「卒業予備研究(B)」「卒業研究 (A)」を通して集中的に公務員試験受験のための社会人基礎力を獲得し公務員試験に合格する。

Society 5.0 保育者養成コース
基礎教育科目の「ソサエティ 5.0 理解」「情報処理基礎」「情報処理演習」「ICT リテラシー (A)」及び「ICT リテラシー (B)」の学習を通して Society 5.0 時代の保育者に必要な ICT 技術を修得すると共に、「卒業予備研究(B)」「卒業研究 (A)」「卒業研究 (B)」で「模擬保育室」「保育相談実践室」の Society 5.0 化を研究し Society 5.0 時代の保育者になる。

学生の学習成果
本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基に、自律した信念のある社会人となることである。
学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応する保育者（幼稚園教諭・保育士）になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。
Ⅰ．専門的学習成果
幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・１歳以上３歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる能力を獲得する。
Ⅱ．汎用的学習成果
社会人として求められる態度、信念、意見、価値、コミュニケーション能力を獲得する。
社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理の能力を、また職業生活や社会生活で必要な情報リテラシーや数量的スキル、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針
学位：短期大学士（幼児教育学）
Society 5.0 時代の現場に即応する保育者になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。
卒業認定の際に獲得していることを求める学習成果は次のとおりである。
Society 5.0 時代の現場に即応できる保育者に求められる専門的学習成果と社会人・職業人として求められる汎用的学習成果を獲得している。

教育課程編成・実施の方針
　卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が 1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を 30 単位とするため、基礎教育科目及び専門教育科目と合わせた単位の上限を 30 単位とし、可能な限り 25 単位に近づけるように科目を開講する。
専門教育科目の編成と実施
　幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目と、保育士資格取得に必要なカリキュラムを編成する。
授業の実施は、専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果をも獲得できるように実施する。
基礎教育科目の編成と実施
　免許法施行規則の第６６条の６に定める科目と共に、卒業後、公務員となる公務員養成コース及び Society 5.0 時代の保育者となる Society 5.0 保育者養成コースに必要な授業科目を編成する。
意欲ある学生に対して図書館司書を取得できる科目を編成し、実施する。

入学者受入れの方針
本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。
・自分のなりたい保育者像が明確である。
・子どもが好きで、心身ともに健康で、何事にも積極的である。
・幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得し、卒業後保育者として働く意志が強い。
・Society 5.0 時代に必要なスキルの修得意識が強い。
・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
・体育や図画工作、音楽が好きで、特にピアノについては、基礎技能を身に付けようと努力できる。

（２）中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況
中期計画は「学校法人原田学園経営改善計画（令和５年度～９年度)」として策定してあり、その概要を以下に示す。

１．経営改善計画最終年度における財務上の数値目標

- 異次元の人件費の改善（5 年間で 19,398,105 円の人件費削減）
- 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科の KPI
  - 令和 6 年度募集：40 名（総合型 10 名　学校推薦型 20 名　一般 10 名）
  - 令和 7 年度募集：40 名（総合型 10 名　学校推薦型 20 名　一般 10 名）
  - 令和 8 年度募集：44 名（総合型 12 名　学校推薦型 22 名　一般 10 名）
  - 令和 9 年度募集：44 名（総合型 12 名　学校推薦型 22 名　一般 10 名）
  - 令和 10 年度募集：50 名（総合型 14 名　学校推薦型 24 名　一般 12 名）
- 岡山短期大学幼児教育学科の KPI（令和 5 年 12 月現在）
  - 令和 6 年度募集：40 名（総合型 10 名、学校推薦型 25 名　一般 5 名）
  - 令和 7 年度募集：40 名（総合型 10 名、学校推薦型 25 名　一般 5 名）
  - 令和 8 年度募集：44 名（総合型 12 名、学校推薦型 27 名　一般 5 名）
  - 令和 9 年度募集：48 名（総合型 14 名、学校推薦型 29 名　一般 5 名）
  - 令和 10 年度募集：50 名（総合型 15 名、学校推薦型 30 名　一般 5 名）
- 広告費等削減（令和９年度までに 160,000,000 円の削減）

２．建学の精神・ミッションを踏まえた学校法人の目指す将来像

- 教育三綱領「自律創生、信念貫徹、共存共栄」を基にした学生の学習成果の獲得

岡山学院大学の教育理念は、21 世紀の我が国の少子高齢化の時代において、15 歳から 65 歳までの生産年齢人口の縮小を抑止するために、国民一人一人の健康維持及び増進をはかり、我が国の労働生産力の向上に寄与する人材を本学の「人間教育」と「技術・技能教育」をもって育成することである。
岡山短期大学の教育理念は、学生一人一人が強い信念を持ち、それぞれが志した学習目標を達成し、本学で修得した知識、技能および資格を活かした進路を確実に得、社会の発展に寄与する人材を育てることである。

３．実施計画

（１）教学改革計画

- 岡山学院大学
  - おかがくファンづくり
  - 栄養学×Society5.0 の確立
  - 地域貢献イベントの積極的企画・参加
- 岡山短期大学
  - おかたんみらい園の質的向上と活性化
  - 幼児教育×Society5.0 の確立
  - 地理的向上を活かした里山保育の実施
  - 高い学生満足度からの課題発見と解決方策の工夫
- カリキュラム改革・キャリア支援等
  - 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（大学・短大）
    - 学生募集視点
    - カリキュラム実施視点
  - スマート OKAGAKU アクションの PDCA サイクル（大学）
  - 公務員養成コースの PDCA サイクル（短大）
  - Society5.0 保育者養成コースの PDCA サイクル（短大）

（２）学生募集対策と学生数・学納金等計画

- おかがく・おかたん魅力づくりと発信戦略

【魅力づくり】

- 入試広報戦略会議結果を踏まえた PDCA サイクル

- ✧ 高大接続連携
  - ➢ 入学前から輝くためのエンロールメントサポート
  - ➢ 信頼につながる高校訪問
- ✧ 地域貢献活動
- ✧ 産学官連携
- ✧ その他

【発信法】

- ○ オープンキャンパスの参加者増加につながる発信
- ○ オープンキャンパス内容の質的向上
  - ✧ 新規開拓戦略
  - ✧ リピーター戦略
- ○ ガイダンス業務の質的向上
- ○ HP 更新の質的向上
- ○ SNS 発信業務の質的向上

＜大学戦略＞

一般選抜受験の強化を図るための戦略（進学校（リクルート調査偏差値 50 以上）受験強化）

- ○ 一般選抜の課題と解決方策の工夫（PDCA サイクルの実施）
- ○ 夢ナビ（フロムページ）参画と高大接続連携
- ○ 一般選抜出願につながる倉敷市、福山市、岡山市の進学校における公開講座の計画及び実施

＜短大戦略＞

好循環につながるおかたんみらい園活性化プログラム

- ○ おかたんみらい園活用プログラムの実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクルの実施）
- ○ 高校生（保育者志望）を呼び込む好循環サイクルの計画と実施

（３） 外部資金の獲得・寄付の充実・遊休資産処分等計画

- ○ 同窓会寄付、後援会助成金、卒業寄付の充実を図る（令和 6 年度より）

（４）人事政策と人件費の削減計画

- ○ 異次元の人件費の改善（5 年間で 19,398,105 円の人件費削減）

（５）経費削減計画（人件費を除く）

- ○ 広告費削減（令和９年度までに 160,000,000 円の削減）
- ○ 消耗品費の削減
- ○ 光熱水費の削減

（６）施設等整備計画

- ○ トイレ改修工事（状況を見据えて計画に盛り込んでいく予定）

（７）借入金等の返済計画

- ○ 借入金全てを返済。トイレ改修工事があれば盛り込む

<u>進捗・達成状況</u>

<u>計画全般</u>

経営改善計画最終年度における財務上の数値目標

- ○ 異次元の人件費の改善（5 年間で 19,398,105 円の人件費削減）

人件費の削減状況

R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度 見込	R6 年度 見込	R7 年度 見込	R8 年度 見込	R9 年度 見込
247,795	229,558	231,771	224,314	230,827	259,762	241,795	251,630

○ 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科の KPI
  - 令和 6 年度募集：40 名（総合型 10 名　学校推薦型 20 名　一般 10 名）
    結果報告：15 名（総合型 8 名、学校推薦型 4 名　一般 3 名）
  - 令和 7 年度募集：40 名（総合型 10 名　学校推薦型 20 名　一般 10 名）
  - 令和 8 年度募集：44 名（総合型 12 名　学校推薦型 22 名　一般 10 名）
  - 令和 9 年度募集：44 名（総合型 12 名　学校推薦型 22 名　一般 10 名）
  - 令和 10 年度募集：50 名（総合型 14 名　学校推薦型 24 名　一般 12 名）

○ 岡山短期大学幼児教育学科の KPI（令和 5 年 12 月現在）
  - 令和 6 年度募集：40 名（総合型 10 名、学校推薦型 25 名　一般 5 名）
    結果報告：33 名（総合型 20 名　学校推薦型 10 名　一般 3 名）
  - 令和 7 年度募集：40 名（総合型 10 名、学校推薦型 25 名　一般 5 名）
  - 令和 8 年度募集：44 名（総合型 12 名、学校推薦型 27 名　一般 5 名）
  - 令和 9 年度募集：48 名（総合型 14 名、学校推薦型 29 名　一般 5 名）
  - 令和 10 年度募集：50 名（総合型 15 名、学校推薦型 30 名　一般 5 名）

○ 広告費等削減（令和９年度までに 160,000,000 円の削減）
  令和６年度から上記削減を進めており、広告費等の削減をしているところである。

３．実施計画

（１）教学改革計画

○ 岡山学院大学

✧ おかがくファンづくり

おかがくファンづくりの準備段階として、あらゆる角度から包括協定を早急に締結することが求められる。留学生の受け入れ体制を強化するために、大阪府に所在する日本語学校 2 校と学生募集に関係する包括協定を締結した。地域貢献に係る包括協定として倉敷市との包括協定を令和 6 年度に結ぶ予定である。

✧ 栄養学×Society5.0 の確立

令和 5 年度に数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度のリテラシーレベルの認定を受けた。数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの認定を受け、令和 6 年度に「Society5.0 時代の現場に即応する管理栄養士」の教育目標をわかりやすくするために、「数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士」と教育目標を明瞭にして、ステークホルダーにミスマッチが生じないように、デジタル生活学部フードマネジメント学科と名称変更をする。

✧ 地域貢献イベントの積極的企画・参加

地域で活躍する人材を養成する機関として、高梁川流域圏の地域貢献イベントに積極的企画・参加をすることで地域的ニーズに対応する。
令和 5 年度は、笠岡市の六島の地域貢献活動に参加するなどで貢献した。また、子ども食堂に参加することで、地域貢献活動に貢献した。令和 6 年度も同様に地域貢献イベントに積極的企画・参加するようにする。

○ 岡山短期大学

✧ おかたんみらい園の質的向上と活性化

おかたんみらい園の参加者数
令和 4 年度：保護者 94 名、子ども 96 名、その他 6 名

（１）「模擬保育室一般開放における利用規則」を作成する。
（２）模擬保育室横のピロティについてさらなる整備を行う。
●うさぎの飼育コーナーに加えて、「アヒル飼育コーナー」の整備を検討する。
（３）模擬保育室の一般開放の拡充と充実、倉敷市保健推進室とのさらなる連携の模索
（４）模擬保育室備え付けの玩具などが古い感じがする（衛生面での不安が生じる）との意見があるため、玩具を含めて抜本的に備え付けのものの検討や改善を行う。
（５）模擬保育室の消毒など、衛生面を強化する。
●模擬保育室の消毒については、以下２つの消毒液を購入し、適宜消毒にあたっている。　・ドーバーパストリーゼ 77　・ピューラックス

（6）絵本・紙芝居コーナーの充実

- ✧ 幼児教育×Society5.0 の確立

令和 5 年度卒業生　数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの履修率：51％（申請時）

履修率 100％をめざすために、入学生対象のオリエンテーションから本プログラムの目的と意義について説明し、学生自身が目標を持って履修するよう指導する。また、卒業生アンケート及びステークホルダーに対して外部評価を確実に実施し PDCA サイクルを廻すことで改善を図る。

- ✧ 地理的向上を活かした里山保育の実施

令和 5 年度について、里山保育の実施はできていない。令和 6 年度に実施する予定である。

- ✧ 高い学生満足度からの課題発見と解決方策の工夫

卒業時の学生満足度は 90％と高くなっているが、学生募集などに活かされていない。学生募集に活かす方法を早急に提案する予定である。

- ○ カリキュラム改革・キャリア支援等
  - ✧ 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（大学・短大）
    - ➢ 学生募集視点

大学：現段階において、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムが学生募集に直接つながっていない。ステークホルダーに対しミスマッチが生じている。

短大：現段階において、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムが学生募集に直接つながっていない。広報活動につなげる方法を検討する。

- ➢ カリキュラム実施視点

大学：数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの履修率は低く、入学後も履修者が増える取組ができていない。名称変更や教育目標を明瞭にするなど、履修率の向上を図る。また、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベルに対応できるようカリキュラムを編成する。

短大：Society5.0 時代の現場に即応する保育者として、卒業研究で Society5.0 化を図る研究をしている。Society5.0 時代に即応できる保育者の育成を目的としている中で、各ゼミおける Society5.0 の捉え方は様々である。全ての分野で ICT 化することが良いというわけではないが、Society5.0 保育者養成コースであるため、分野ごとにどのようなことができるのかを考えていかなければならない。Society5.0 を批判する分野があっても良いと考える。コース名と研究内容がかけ離れないように、教員と学生が良い一層話し合いながら、研究していくことが求められる。

- ✧ スマート OKAGAKU アクションの PDCA サイクル（大学）

令和 5 年度 FD 委員会でスマート OKAGAKU アクションの PDCA サイクルを点検した。課題を踏まえ解決する仕組みを構築した。

- ✧ 公務員養成コースの PDCA サイクル（短大）

今年度より、公務員を目指す学生のみを対象として、公務員講座（A）および（B）を開講している。もちろん、履修しなくても公務員試験は受験してよいが、対象を絞ったことにより、毎時間の学びがより深化していると思われる。　しかしながら、例年のことであるが、公務員試験に向けた準備のなかで「公務員を目指すことを諦めてしまう」学生が出てきている。もちろん、学生本人の意思を尊重することが大切であるが、少しでも多くの学生が、公務員試験に向けて前向きに取り組めるようなサポートを考えていきたい。

- ✧ Society5.0 保育者養成コースの PDCA サイクル（短大）

Society5.0 時代に即応できる保育者の育成を目的としている中で、各ゼミおける Society5.0 の捉え方は様々である。全ての分野で ICT 化することが良いというわけではないが、Society5.0 保育者養成コースであるため、分野ごとにどのようなことができるのかを考えていかなければならない。

Society5.0を批判する分野があっても良いと考える。コース名と研究内容がかけ離れないように、教員と学生が良い一層話し合いながら、研究していくことが求められる。

積算基礎１（岡山学院大学）

令和５年度学生募集（入学者数15名）を受け、かなり厳しい状況であることは変わらない。本学の強みは、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを修得した中国四国随一の管理栄養士養成であるが、ステークホルダーの獲得につながっていない。学生（現３年生）から「管理栄養士養成なので調理や栄養、健康のことを学ぶものと思っていたが、入学してから苦手な数学や情報のことをたくさん学ぶとは思わなかった。」等口頭意見が出るなど、ミスマッチが生じている。今後も数理・データサイエンス・AI教育プログラムは重要であると考えているため、ミスマッチが生じないよう令和６年度中に人間生活学部食物栄養学科からデジタル生活学部フードマネジメント学科という名称に変更並びにSociety5.0社会の現場に即応する管理栄養士という曖昧な教育目標を数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士という教育目標にして明瞭にすることでミスマッチが生じないようにして学生募集を実施する。

積算基礎１（岡山短期大学）

令和５年度学生募集の状況を受け、かなり厳しい状況であることが分かった。岡山県内の短大の状況などを踏まえ短大入学定員を70名にした。また、令和６年度学生募集も過半数を割ることが判明し１２月に定員を40名に変更した。V字回復を図るためには、①倉敷市と包括協定の締結、②産学官連携の確立、③新路を構築し学生募集の充実化を図ることなどが求められる。

（3）その他

令和5年度FD・SDワークショップ

日　　時：　令和5年12月22日（金）9：10～
場　　所：　本学情報処理教育センター　D302

詳細日程：

時　間	内　　　　容
9：10～10：00	岡山学院大学・岡山短期大学事務部SD委員会報告（15分の質疑応答含む） （1）　SD会議実施報告について （2）　オープンキャンパス実施結果について （3）　学生食堂のキャッシュレス化について （4）　事務部の業務改善にかかる教職協働について
10：00～11：00	岡山短期大学FD委員会　報告（15分の質疑応答含む） （1）FD委員会報告 （2）幼児教育学科在学生DS（ディプロマサプリメント）の作成について （3）学生の学習成果の獲得に向けた相互による授業評価の実施について （4）進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援について （5）数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検評価について （6）外部評価の実施について ①　令和5年3月卒業生就職先学習成果に関するアンケートについて ②　平成31年3月、令和2年3月、令和3年3月卒業生アンケートについて ③　外部評価（地域・高大接続連携校）について （7）　Society5.0保育者養成コース及び公務員養成コースの実施状況について （8）　学生の学習成果及び3つの方針の点検について （9）査定（アセスメント）とPDCA ①　学生の学習成果のPDCAサイクル ②　教育課程編成・実施の方針（CP）のPDCAサイクル ③　卒業認定・学位授与の方針（DP）のPDCAサイクル ④　入学者受入れの方針（AP）のPDCAサイクル
11：00～12：30	岡山学院大学FD委員会　報告（15分の質疑応答含む） （1）　FD委員会報告 （2）　食物栄養学科在学生DS（ディプロマサプリメント）の作成について （3）　学生の学習成果の獲得に向けた相互による授業評価の実施について （4）　Society5.0人材養成プログラムの実施について ①　数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検評価について ②　健康寿命延伸教室の自己点検評価について ③　栄養アセスメントの自己点検評価について （5）　進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援について （6）　国試対策ゼミPDCAサイクルについて ①　国試対策ゼミPDCAサイクルの策定について ②　令和5年度国試対策ゼミPDCAサイクルの経過報告 （7）　外部評価の実施について ①　令和5年3月卒業生就職先学習成果に関するアンケートについて ②　平成31年3月、令和2年3月、令和3年3月卒業生アンケートについて ③　外部評価（地域・高大接続連携校）について （8）　スマートOKAGAKUアクションの実施と改善について （9）　学生の学習成果及び3つの方針の点検結果について ①　査定（アセスメント）とPDCA

	②　学生の学習成果のPDCAサイクル ③　教育課程編成・実施の方針（CP）のPDCAサイクル ④　卒業認定・学位授与の方針（DP）のPDCAサイクル ⑤　入学者受入れの方針（AP）のPDCAサイクル
12：30～12：50	講演：「倉敷市が目指す保育者像と岡山短期大学幼児教育学科への期待」 講師：倉敷市保健福祉局　子ども未来部保育・幼稚園課　課長　岡野一郎　様
12：50～13：00	講演に対する質疑応答
13：00～13：05	総括（学長　原田博史）

令和5年度外部研究費の獲得

令和5年度学術研究助成事業助成金

研究代表者

・研究種目：基盤研究(C)／令和4年度～令和6年度
・研究課題名：「動物園等が配信する動画を含むコンテンツをバリアフリー化する障害児支援教材の開発」
・研究代表者：山口雪子
・研究分担者：松本朱実（社会構想大学院大学）
・交付決定額（3年総計）：4,160,000円【直接経費：3,200,000円、間接経費：960,000円】
・令和4年度：1,560,000円【直接経費：120万円、間接経費：36万円】
・令和5年度：1,430,000円【直接経費：110万円、間接経費：33万円】

研究分担者

・研究種目：基盤研究(C)／令和4年度～令和7年度
・研究課題名：「腸内細菌叢の改善による反復性膀胱炎の新たな予防法と治療法の開発」
・研究代表者：石井亜矢乃（岡山大学）
・研究分担者：狩山玲子
・令和4年度：65,000円【直接経費：5万円、間接経費：1万5千円】
・令和5年度：104,000円【直接経費：8万円、間接経費：2万4千円】

・研究種目：基盤研究(C)／令和5年度～令和7年度
・研究課題名：「生物学的半減期増長ビタミンD誘導体合成と疾患モデル動物でのホルモン様作用増強解析」
・研究代表者：橘高敦史（帝京大学）
・研究分担者：岡田只士
・令和5年度：195,000円【直接経費：15万円、間接経費：4万5千円】

令和5年度外部資金の獲得

令和5年度岡山県補助金

・令和5年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業補助金
・研究代表者：平野聡
・補助金額：272,000円

・おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金
　補助金額：97,000円

3　財務の概要

(1)決算の概要

①貸借対照表関係

ア）貸借対照表の状況と経年比較（5か年間）

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
固定資産	4,338,879,998	4,091,797,176	3,902,832,979	3,655,501,907	3,412,453,539
流動資産	157,120,728	169,715,849	92,651,525	109,977,186	96,221,548
資産の部合計	4,496,000,726	4,261,513,025	3,995,484,504	3,765,479,093	3,508,675,087
固定負債	154,940,849	149,610,176	149,356,046	137,451,562	129,256,423
流動負債	79,386,873	106,702,715	58,733,707	56,173,283	44,531,022
負債の部合計	234,327,722	256,312,891	208,089,753	193,624,845	173,787,445
基本金	7,432,074,035	7,435,685,560	7,438,937,202	7,445,181,050	7,449,576,416
繰越収支差額	△ 3,170,401,031	△ 3,430,485,426	△3,651,542,451	△ 3,873,326,802	△4,114,688,774
純資産の部合計	4,261,673,004	4,005,200,134	3,787,394,751	3,571,854,248	3,334,887,642
負債及び純資産の部合計	4,496,000,726	4,261,513,025	3,995,484,504	3,765,479,093	3,508,675,087

イ）財務比率の経年比較

・運用資産余裕比率、流動比率、総負債比率、前受金保有率、基本金比率、積立率等

貸借対照表関係比率	医療法人以外大学法人全国平均	短大法人全国平均	評	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
固定資産構成比率	825%	80.9%	～	96.5%	96.0%	97.7%	97.1%	97.2%
有形固定資産構成比率				74.2%	76.1%	79.1%	81.6%	85.1%
特定資産構成比率				22.2%	19.8%	18.5%	15.4%	12.1%
流動資産構成比率	17.5%	19.1%	～	3.5%	4.0%	2.3%	2.9%	2.7%
固定負債構成比率	8.6%	9.4%	▼	3.4%	3.5%	3.7%	3.6%	3.7%
流動負債構成比率	6.5%	6.5%	▼	1.8%	2.5%	1.5%	1.5%	1.3%
内部留保資産比率				19.4%	17.5%	15.5%	12.9%	9.7%
運用資産余裕比率				202.8%	196.9%	167.7%	133.7%	108.6%
純資産構成比率				94.8%	94.0%	94.8%	94.9%	95.0%
繰越収支差額構成比率				△70.5%	△80.5%	△91.4%	△102.9%	△117.3%
固定比率	97.2%	95.3%	▼	101.8%	102.2%	103.1%	102.4%	102.3%
固定長期適合率	88.3%	85.5%	▼	98.2%	98.5%	99.1%	98.6%	98.5%
流動比率	269.7%	292.3%	△	198.7%	158.9%	157.6%	196.4%	213.3%
総負債比率	15.1%	16.0%	▼	5.2%	6.0%	5.2%	5.2%	5.0%
負債比率	17.8%	19.0%	▼	5.5%	6.4%	5.5%	5.4%	5.2%
前受金保有率	326.6%	430.1%	△	297.2%	385.4%	247.2%	348.3%	357.7%
退職給与引当特定資産保有率				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
基本金比率	95.8%	94.1%	△	100.0%	100.0%	99.9%	99.9%	100.0%
減価償却比率	35.5%	36.6%	～	61.6%	63.0%	64.4%	65.7%	67.1%
積立率				26.2%	23.3%	18.9%	15.2%	11.3%

医療法人以外大学法人全国平均及び短大法人全国平均は平成１４年度版日本私立学校振興・共済事業団の平成１３年度の値で、同様に評は「　▼　低い値が良い　△　高い値がよい　～　どちらとも言えない」を示している。

平成26年度の関係比率の平成27年度からの関係比率計算式

固定資産構成比	固定資産÷総資産	固定比率	固定資産÷純資産

率			
有形固定資産構成比率	有形固定資産÷総資産	固定長期適合率	固定資産÷（純資産＋固定負債）
特定資産構成比率	特定資産÷総資産	流動比率	流動資産÷流動負債
流動資産構成比率	流動資産÷総資産	総負債比率	総負債÷総資産
固定負債構成比率	固定負債÷（総負債＋純資産）	負債比率	総負債÷純資産
流動負債構成比率	流動負債÷（総負債＋純資産）	前受金保有率	現金預金÷前受金
内部留保資産比率	（運用資産－総負債）÷総資産	退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産÷退職給与引当金
運用資産余裕比率	（運用資産－外部負債）÷経常支出	基本金比率	基本金÷基本金要組入額
純資産構成比率	純資産÷（総負債＋純資産）	減価償却比率	減価償却累計額（図書を除く）÷減価償却資産取得価額（図書を除く）
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額÷（総負債＋純資産）	積立率	運用資産÷要積立額

運用資産→現金預金＋特定資産＋有価証券
要積立額→減価償却累計額＋退職給与引当金＋２，３号基本金

貸借対照表関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

固定資産構成比率	固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標である。固定資産は施設設備等の有形固定資産と各種引当特定資産を内容とする特定資産を中心に構成されている。学校法人が行う教育研究事業には多額の設備投資が必要となるため、一般的にはこの比率が高くなることが学校法人の財務的な特徴である。この比率が学校法人全体の平均に比して特に高い場合、資産の固定化が進み流動性が乏しくなっていると評価することができる。しかし固定資産に占める特定資産の比率が高い学校法人においては必ずしもこの評価は適切ではないため、資産の固定化を測る比率として、有形固定資産に焦点をあてた「有形固定資産構成比率」を利用することも有効である。なお、固定資産構成比率は、流動資産構成比率と表裏をなす関係にある。
有形固定資産構成比率	有形固定資産の総資産に占める構成割合で、土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているかを評価する指標である。学校法人では教育研究事業に多額の施設設備投資を必要とするため、この比率が高くなることが財務的な特徴であるが、学校規模に比して設備投資が過剰となる場合は財政を逼迫させる要因ともなるため、注意が必要である。
特定資産構成比率	特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況を評価する指標である。一般的には、この比率が高い場合は中長期的な財政支出に対する備えが充実しており、計画的な学校法人経営に資するといえる。この比率が低い場合には主に二通りの評価が考えられる。一つは固定・流動を合わせた金融資産が少ないため特定資産の形成が困難な場合であり、資金の目的化以前に財政基盤の脆弱さ、資金の流動性の問題が懸念される。もう一つは金融資産は少なからず保有しているが特定資産を形成していない場合で、この場合は直ちに財政基盤が脆弱であるとはいえない。しかし近年では中長期的な視点にたった経営計画の策定と、経営計画の下支えとなる特定資産の重要性が高まっており、また保護者をはじめとした利害関係者への説明責任の観点からも計画的な特定資産形成が望ましい。

流動資産構成比率	流動資産の総資産に占める構成割合で、固定資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標となる。流動資産は現金預金と短期有価証券のほか、未収入金などで構成されている。一般的にこの比率が高い場合、現金化が可能な資産の割合が大きく、資金流動性に富んでいると評価できる。逆に著しく低い場合は、資金流動性に欠け、資金繰りが苦しい状況にあると評価できる。この比率が低い場合であっても、低金利下での有利な運用条件を求めて長期預金や長期有価証券を保有している場合や、将来的な財政基盤の安定化のために金融資産を目的化して特定資産化している場合には、必ずしも流動性に乏しいとはいえないため、特定資産や固定資産の有価証券の保有状況も確認して評価を行う必要がある。なお、流動資産構成比率は固定資産構成比率と表裏をなす関係にある。
固定負債構成比率	固定負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に長期的な債務の状況を評価するものであり、流動負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。固定負債は主に長期借入金、学校債、退職給与引当金等で構成されており、これらは長期間にわたり償還あるいは支払い義務を負う債務である。学校の施設設備の拡充や更新の際に、長期借入金を導入した方が財政計画上有利となる場合等もあり、長期借入金が多いことが直ちにネガティブな評価とはならないが、学校法人の施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が過度に高い場合には、経営上の懸念材料となる点に留意が必要である。
流動負債構成比率	流動負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に短期的な債務の比重を評価するものであり、固定負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。学校法人の財政の安定性を確保するためには、この比率が低いほうが好ましいと評価できる。しかし流動負債のうち、前受金は主として翌年度入学生の納付金がその内容であり、短期借入金とは性格を異にするものであるため、流動負債を分析する上では前受金の状況にも留意する必要がある。
内部留保資産比率	特定資産（各種引当資産）と有価証券（固定資産および流動資産）と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合である。この比率がプラスとなる場合は運用資産で総負債をすべて充当することができ、結果的に有形固定資産が自己資金で調達されていることを意味しており、プラス幅が大きいほど運用資産の蓄積度が大きいと評価できる。一方、この比率がマイナスとなる場合、運用資産より総負債が上回っていることを意味しており、財政上の余裕度が少ないことを表すこととなる。
運用資産余裕比率	「運用資産（特定資産・有価証券・現金預金の換金可能なもの）」から「外部負債（借入金・学校債・未払金等の外部に返済を迫られるもの）」を差し引いた金額が、事業活動収支計算書上の経常支出の何倍にあたるかを示す比率であり、学校法人の一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているかを表す指標である。この比率が 1.0 を超えている場合とは、すなわち一年間の学校法人の経常的な支出を賄えるだけの資金を保有していることを示し、一般的にはこの比率が高いほど運用資産の蓄積が良好であるといえる。なお、この比率の単位は（年）である。
純資産構成比率	純資産の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も概括的で重要な指標である。この比率が高いほど財政的には安定しており、逆に 50%を下回る場合は他人資金が自己資金を上回っていることを示している。
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合である。繰越収支差額とは、過去の会計年度の事業活動収入超過額又は支出超過額の累計であり、一般的には支出超過（累積赤字）であるよりも収入超過（累積黒字）であることが理想的である。しかし、単年度の事業活動収支を分析する場合と同様に、事業活動収支差額は各年度の基本金への組入れ状況によって左右される場合もあるため、この比率のみで分析した場合、一面的な評価とな

	る虞がある。この比率で評価を行う場合は基本金の内訳とその構成比率と併せて検討する必要がある。
固定比率	固定資産の純資産に対する割合で、土地・建物・施設等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか、すなわち資金の調達源泉とその使途とを対比させる比率である。固定資産は学校法人の教育研究事業にとって必要不可欠であり、永続的にこれを維持・更新していく必要がある。固定資産に投下した資金の回収は長期間にわたるため、本来投下資金は返済する必要のない自己資金を充てることが望ましい。しかし実際に大規模設備投資を行う際は外部資金を導入する場合もあるため、この比率が 100%を超えることは少なくない。このような場合、固定長期適合率も利用して判断することが有効である。なお、固定資産に占める有形固定資産と特定資産の構成比にも留意が必要である。
固定長期適合率	固定資産の、純資産と固定負債の合計値である長期資金に対する割合で、固定比率を補完する役割を担う比率である。固定資産の取得を行う場合、長期間活用できる安定した資金として自己資金のほか短期的に返済を迫られない長期借入金でこれを賄うべきであるという原則に対してどの程度適合しているかを示している。この比率は 100%以下で低いほど理想的とされる。100%を超えた場合は、固定資産の調達源泉に短期借入金等の流動負債を導入していると解することができ、財政の安定性に欠け、長期的にみて不安があることを示している。固定比率が 100%以上の法人にあっては、この固定長期適合率を併用するとともに固定資産の内容に注意して分析することが望ましい。
流動比率	流動負債に対する流動資産の割合である。一年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。一般に金融機関等では、200%以上であれば優良とみなしており、100%を切っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮していると見られる。ただし、学校法人にあっては、流動負債には外部負債とは性格を異にする前受金の比重が大きいことや、流動資産には企業のように多額の「棚卸資産」がなく、ほとんど当座に必要な現金預金であること、さらに、資金運用の点から、長期有価証券へ運用替えしている場合もあり、また、将来に備えて引当特定資産等に資金を留保している場合もあるため、必ずしもこの比率が低くなると資金繰りに窮しているとは限らないので留意されたい。
総負債比率	固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する極めて重要な比率である。この比率は一般的に低いほど望ましく、50%を超えると負債総額が純資産を上回ることを示し、さらに 100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過であることを示す。
負債比率	他人資金と自己資金との割合で、他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり、100%以下で低い方が望ましい。この比率は総負債比率、純資産構成比率と相互に関連しているが、これらの比率よりも顕著に差を把握することができる。
前受金保有率	前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率であり、100%を超えることが一般的とされている。この比率が 100%を下回っている場合、主に 2 つの要因が考えられる。1 つには前受金として収受した資金を現金預金以外の形で保有し、短期的な運用を行っている場合であり、この場合は有価証券の状況を確認することで前もって収受している翌年度分の納付金が保有されていることを確認することとなる。もう 1 つは、翌年度分の納付金として収受した前受金に前年度のうちから手を付けている場合であり、この状況は資金繰りに苦慮している状態

	を端的に表しているものと見ることができる。なお、入学前に前受金を収受していない学校ではこの値が高くなる場合があるため、入学前年度における授業料等の納付条件等も確認する必要がある。
退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当金と特定資産中の退職給与引当特定資産の充足関係を示す比率で、将来的な支払債務である退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているかを判断するものであり、一般的には高い方が望ましい。ただし、学校法人によって退職給与引当率に差異がある場合や、特定資産を形成せず現金預金・有価証券等の形で保有している場合もあり、この比率が低い場合は退職給与引当金の財源をどのように確保しているか、学校法人の状況を念頭に置いて評価する必要がある。
基本金比率	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合である。この比率は100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示している。未組入額があることはすなわち借入金又は未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味するため、100%に近いことが望ましい。しかし、仮に100%である場合でも繰越事業活動収支差額において支出超過となっている場合、累積した支出超過が基本金を毀損していることとなるため、繰越事業活動収支差額の状況も併せて評価する必要がある。
減価償却比率	減価償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合である。建物・設備等の有形固定資産を中心とする減価償却資産は、耐用年数に応じて減価償却されるが、固定資産の取得価額と未償却残高との差額である償却累計額が、取得価額に対してどの程度を占めているかを測る比率である。資産の取得年次が古いほど、又は耐用年数を短期間に設定しているほどこの比率は高くなる。なお、設立から間もない学校法人では固定資産の償却が開始したばかりであるため、特に低い値となる。
積立率	学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。この比率では、長期的に必要となる資金需要の典型的なものとして、施設設備の取替更新と退職金支払に焦点をあてている。その一方で運用資産の内容は、学校法人ごとに特定資産の使途の指定状況が一様ではないことから、換金可能な金融資産、すなわち現金預金・有価証券（固定資産および流動資産）・特定資産の合計額と幅広く捉えている。そのため算定式の分子・分母に使途の異なる要素が混在することとなるが、ここでは学校法人全体の財政状況の全体的な把握を主眼に置いており、個別目的に対応した資産の保有状況を測るものではない。一般的には比率は高い方が望ましいが、例えば学校法人の将来計画において部門の規模縮小や廃止等が予定されている場合にはその分の施設設備の取替更新等が不要となるため、算定式から不要分にかかる要素を除外して試算してみる等、この算定式から得られる結果のみに捉われず各学校法人の状況に応じた試算を併用することも比率の活用の上では重要である。

②資金収支計算書関係

ア）資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
学生生徒等納付金収入	216,807,474	174,305,090	191,975,139	190,305,671	156,676,080
手数料収入	2,502,400	2,822,600	2,635,700	2,093,100	1,775,400
寄付金収入	14,582,829	12,497,252	12,336,644	6,857,755	6,588,044
補助金収入	80,310,560	39,814,700	54,701,000	70,910,700	60,391,400
資産売却収入	0	0	1,859,504	0	0
付随事業・収益事業収入	572,200	583,900	254,500	168,300	179,000
受取利息・配当金収入	744,097	407,908	69,840	146,863	0
雑収入	34,940,020	15,826,135	7,835,844	12,412,233	3,607,517
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	36,495,500	40,927,000	36,496,500	29,079,000	25,590,000
その他の収入	8,768,541	243,003,763	113,987,749	164,162,995	165,740,745
資金収入調整勘定	△ 95,201,143	△ 46,535,100	△43,362,000	△ 45,524,150	△ 30,795,750
前年度繰越支払資金	289,398,160	107,167,952	158,029,487	88,614,180	100,540,974
収入の部合計	589,920,638	590,821,200	536,819,907	519,226,647	490,293,410

支出の部	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
人件費支出	288,050,165	247,794,781	229,557,022	231,771,043	219,893,156
教育研究経費支出	100,719,584	101,714,367	105,183,355	111,161,600	93,334,125
管理経費支出	59,133,588	62,207,712	62,637,953	67,240,301	67,903,125
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	43,857,000	0	5,198,820	520,300	925,100
設備関係支出	4,348,586	3,549,470	3,792,888	9,869,186	4,785,196
資産運用支出	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
その他の支出	18,150,886	35,592,215	57,315,849	13,827,741	20,839,909
資金支出調整勘定	△ 32,507,123	△ 19,066,832	△16,480,160	△ 16,704,498	△ 11,451,464
翌年度繰越支払資金	107,167,952	158,029,487	88,614,180	100,540,974	93,064,263
支出の部合計	589,920,638	590,821,200	536,819,907	519,226,647	490,293,410

イ）活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科目	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	327,320,883	242,493,902	266,657,012	279,635,629	229,217,441
教育活動資金支出計	447,903,337	411,716,860	397,378,330	410,172,944	381,130,406
差引	△ 120,582,454	△ 169,222,958	△130,721,318	△ 130,537,315	△ 151,912,965
調整勘定等	△ 10,995,633	5,336,232	△3,516,275	△ 9,846,136	△ 2,430,975
教育活動資金収支差額	△ 131,578,087	△ 163,886,726	△134,237,593	△ 140,383,451	△ 154,343,940
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	22,394,600	150,000,000	101,859,504	150,000,000	150,000,000

施設整備等活動資金支出計	48,205,586	3,549,470	8,991,708	10,389,486	5,710,296
差引	△ 25,810,986	146,450,530	92,867,796	139,610,514	144,289,704
調整勘定等	△ 22,263,302	21,248,137	3,725,443	△ 1,547,756	△ 1,450,561
施設整備等活動資金収支差額	△ 48,074,288	167,698,667	96,593,239	138,062,758	142,839,143
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 179,652,375	3,811,941	△37,644,354	△ 2,320,693	△ 11,504,797
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	4,880,106	48,756,901	7,099,804	14,986,988	7,859,795
その他の活動資金支出計	7,611,922	1,000,000	39,062,157	1,000,000	3,596,927
差引	△ 2,731,816	47,756,901	△31,962,353	13,986,988	4,262,868
調整勘定等	153,983	△ 707,307	191,400	260,499	△ 234,782
その他の活動資金収支差額	△ 2,577,833	47,049,594	△31,770,953	14,247,487	4,028,086
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 182,230,208	50,861,535	△69,415,307	11,926,794	△ 7,476,711
前年度繰越支払資金	289,398,160	107,167,952	158,029,487	88,614,180	100,540,974
翌年度繰越支払資金	107,167,952	158,029,487	88,614,180	100,540,974	93,064,263

ウ）財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

関係比率	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
教育活動資金収支差額比率	△40.4%	△67.8%	△50.2%	△50.0%	△67.2%

教育活動資金収支差額比率…教育活動資金収支差額÷教育活動資金収入計

③事業活動収支計算書関係

ア）事業活動収支計算書の状況と経年比較

	科目	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	216,807,474	174,305,090	191,975,139	190,305,671	156,676,080
	手数料	2,502,400	2,822,600	2,635,700	2,093,100	1,775,400
	寄付金	13,913,229	12,497,252	12,336,644	6,857,755	6,588,044
	経常費等補助金	58,585,560	39,814,700	54,701,000	70,910,700	60,391,400
	付随事業収入	572,200	583,900	254,500	168,300	179,000
	雑収入	36,976,029	17,289,113	7,702,178	19,652,903	10,464,272
	教育活動収入計	329,356,892	247,312,655	269,605,161	289,988,429	236,074,196
	事業活動支出の部					
	人件費	288,050,165	247,794,781	229,557,022	231,771,043	219,893,156
	教育研究経費	185,095,468	185,800,316	189,194,005	196,502,143	176,492,810
	管理経費	69,315,640	74,041,064	73,209,001	77,798,195	78,079,491
	徴収不能額等	0	0	0	1,146,700	0

	教育活動支出計	542,461,273	507,636,161	491,960,028	507,218,081	474,465,457
	教育活動収支差額	△ 213,104,381	△ 260,323,506	△222,354,867	△ 217,229,652	△ 238,391,261
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	744,097	407,908	69,840	146,863	0
	その他の教育活動外収入	0	3,355,775	3,081,815	3,112,130	0
	教育活動外収入計	744,097	3,763,683	3,151,655	3,258,993	0
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	1,784,886	0	0	0	0
	教育活動外支出計	1,784,886	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	△ 1,040,789	3,763,683	3,151,655	3,258,993	0
経常収支差額		△ 214,145,170	△ 256,559,823	△219,203,212	△ 213,970,659	△ 238,391,261
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	1,259,504	0	0
	その他の特別収入	22,483,466	306,146	737,562	566,029	1,489,459
	特別収入計	22,483,466	306,146	1,997,066	566,029	1,489,459
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	21,943	219,193	599,237	2,135,873	64,804
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	21,943	219,193	599,237	2,135,873	64,804
	特別収支差額	22,461,523	86,953	1,397,829	△ 1,569,844	1,424,655
基本金組入前当年度収支差額		△ 191,683,647	△ 256,472,870	△217,805,383	△ 215,540,503	△ 236,966,606
基本金組入額合計		△ 48,635,173	△ 3,611,525	△3,251,642	△ 6,243,848	△4,395,366
当年度収支差額		△ 240,318,820	△ 260,084,395	△221,057,025	△ 221,784,351	△241,361,972
前年度繰越収支差額		△ 2,930,082,211	△ 3,170,401,031	△3,430,485,426	△ 3,651,542,451	△3,873,326,802
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 3,170,401,031	△ 3,430,485,426	△3,651,542,451	△ 3,873,326,802	△4,114,688,774

（参考）

事業活動収入計	352,584,455	251,382,484	274,753,882	293,813,451	237,563,655
事業活動支出計	544,268,102	507,855,354	492,559,265	509,353,954	474,530,261

イ）財務比率の経年比較

・人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率

事業活動収支計算書関係比率	医療法人以外大学法人全国平均	短大法人全国平均	評	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
人件費比率	51.7%	63.0%	▼	87.3%	98.8%	84.2%	79.2%	93.2%
人件費依存率	69.4%	99.2%	▼	132.7%	142.5%	119.8%	122.1%	140.1%
教育研究経費比率	25.6%	21.9%	△	56.1%	74.1%	69.2%	67.2%	74.6%
管理経費比率	7.5%	9.1%	▼	20.9%	29.5%	26.7%	26.6%	33.1%
借入金等利息比率	0.7%	1.0%	▼	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率				△54.4%	△102.0%	△79.3%	△73.5%	△99.6%
基本金組入後収支比率				178.9%	204.8%	181.3%	176.7%	203.9%
学生生徒等納付金比	74.5%	63.5%	～	65.8%	69.3%	70.3%	64.8%	66.5%

率								
寄付金比率	2.8%	2.4%	△	4.2%	5.2%	4.7%	2.4%	3.4%
経常寄付金比率				4.2%	4.8%	4.4%	2.4%	3.0%
補助金比率	12.5%	23.8%	△	22.7%	15.9%	20.0%	24.1%	25.2%
経常補助金比率				17.9%	15.9%	20.1%	24.2%	25.4%
基本金組入率	16.0%	12.1%	△	13.9%	1.6%	1.1%	2.0%	1.7%
減価償却額比率	11.1%	9.7%	～	17.6%	18.9%	19.3%	18.9%	19.6%
経常収支差額比率				△64.8%	△102.4%	△80.2%	△73.0%	△100.8%
教育活動収支差額比率				△64.7%	△105.3%	△82.2%	△74.8%	△100.8%

医療法人以外大学法人全国平均及び短大法人全国平均は平成１４年度版日本私立学校振興・共済事業団の平成１３年度の値で、同様に評は「 ▼ 低い値が良い △ 高い値がよい ～ どちらとも言えない」を示している。

関係比率の関係比率計算式

人件費比率	人件費÷経常収入
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金
教育研究経費比率	教育研究経費÷経常収入
管理経費比率	管理経費÷経常収入
借入金等利息比率	借入金等利息÷経常収入
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入
基本金組入後収支比率	事業活動支出÷（事業活動収入－基本金組入額）
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷経常収入
寄付金比率	寄付金÷事業活動収入
経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金÷経常収入
補助金比率	補助金÷事業活動収入
経常補助金比率	教育活動収支の補助金÷経常収入
基本金組入率	基本金組入額÷事業活動収入
減価償却額比率	減価償却額÷経常支出
経常収支差額比率	経常収支差額÷経常収入
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額÷教育活動収入計

事業活動収支計算書関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

人件費比率	人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因ともなる。教職員１人当たり人件費や学生生徒等に対する教職員数等の教育研究条件等にも配慮しながら、各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。
人件費依存率	人件費の学生生徒等納付金に占める割合を示す。この比率は人件費比率及び学生生徒等納付金比率の状況にも影響される。一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっている（比率が 100%を超えない）ことが理想的であるが、学校の種類や系統・規模等により、必ずしもこの範囲に収まらない構造となっている場合もある点に留意が必要である。例えば高等学校においては学費軽減の観点から相当規模の補助金が交付されており、相対的に学生生徒納付金が低い水準に抑えられている場合は、分母に補助金を加えて「修正人件費依存率」として評価することも有用である。

教育研究経費比率	教育研究経費の経常収入に占める割合である。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え教育研究用固定資産にかかる減価償却額が含まれている。また附属病院については医療経費がある。これらの経費は教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。なお、高等学校法人等では、教育研究経費と管理経費を区分していない場合もあり、この場合は両者を合算した「経費比率」として分析を行うこととなる。
管理経費比率	経常収入に対する管理経費の占める割合である。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。なお、管理経費と教育研究経費の区分、両者を合計した経費の支出状況や減価償却の程度等にも留意が必要である。
借入金等利息比率	経常収入に対する借入金等利息の占める割合である。この比率は、学校法人の借入金等の額及び借入条件等によって影響を受け、貸借対照表の負債状態が事業活動収支計算書にも反映しているため、学校法人の財務を分析する上で重要な財務比率の一つである。借入金等利息は外部有利子負債がなければ発生しないものであるため、この比率は低い方が望ましいとされる。
事業活動収支差額比率	事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。このプラスの範囲内で基本金組入額が収まっていれば当年度の収支差額は収入超過となり、逆にプラス分を超えた場合は支出超過となる。この比率がマイナスになる場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができないことを示し、基本金組入前の段階で既に事業活動支出超過の状況にある。マイナスとなった要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫され、将来的には資金繰りに支障をきたす可能性が否めない。
基本金組入後収支比率	事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率である。一般的には、収支が均衡する 100%前後が望ましいと考えられるが、臨時的な固定資産の取得等による基本金組入れが著しく大きい年度において一時的に急上昇する場合もある。この比率の評価に際しては、この比率が基本金組入額の影響を受けるため、基本金の組入状況およびその内容を考慮する必要がある。
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金の経常収入に占める割合である。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることの少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。この比率の評価に際しては、同時に学生生徒等納付金の内訳や学生生徒等 1 人当たりの納付金額、奨学費の支出状況も確認することが重要である。
寄付金比率	寄付金の事業活動収入に占める割合である。寄付金は私立学校にとって重要な収入源であり、一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のためには好ましいことである。しかし、寄付金は予定された収入ではないため年度による増減幅が大きくなる。周年事業の寄付金募集を行っている場合、事業の終了後に寄付金収入が大きく落ち込む例が典型的である。今後の学校経営においては、学内の寄付金募集体制を充実させ、一定水準の寄付金の安定的な確保に務めることの重要性が高まっている。
経常寄付金比率	上記寄付金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
補助金比率	国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合である。学校法人において、補助金は一般的に学生生徒等納付金に次ぐ第二の収入源泉であり、今や必要不可欠なものである。私立学校が公教育の一翼を担う観点からも今後の補助金額の増加が大いに期待されている。しかしこの比率が高い場合、学校法人独自の自主財源が相対的に小さく、国や地方公共団体の補助金

	政策の動向に影響を受け易いこととなるため、場合によっては学校経営の柔軟性が損なわれる可能性も否定できない。
経常補助金比率	上記補助金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
基本金組入率	事業活動収入の総額から基本金への組入れ状況を示す比率である。大規模な施設等の取得等を単年度に集中して行った場合は、一時的にこの比率が上昇することとなる。学校法人の諸活動に不可欠な資産の充実のためには、基本金への組入れが安定的に行われることが望ましい。したがってこの比率の評価に際しては、基本金の組入れ内容が単年度の固定資産の取得によるものか、第 2 号基本金や第 3 号基本金にかかる計画的な組入れによるものか等の組入れの実態を確認しておく必要がある。
減価償却額比率	減価償却額の経常支出に占める割合で、当該年度の経常支出のうち減価償却額がどの程度の水準にあるかを測る比率である。一方で、減価償却額は経費に計上されているが実際の資金支出は伴わないものであるため、別の視点では実質的には費消されずに蓄積される資金の割合を示したものと捉えることも可能である。
経常収支差額比率	経常的な収支バランスを表す比率として新設
教育活動収支差額比率	本業である教育活動の収支バランスを表す比率として新設

活動区分資金収支計算書関係比率

関係比率	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
教育活動資金収支差額比率	△40.4%	△67.8%	△50.2%	△50.0%	△67.2%

教育活動資金収支差額比率…教育活動資金収支差額÷教育活動資金収入計

活動区分資金収支計算書関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率である。比率はプラスであることが望ましいが、「その他活動」でキャッシュフローを生み出し、教育研究活動の原資としている場合もあり得るため、「その他活動」の収支状況を併せて確認する必要がある。

(2)その他

①有価証券の状況

・種類、貸借対照表計上額、時価、差額等

該当なし

②借入金の状況

・借入先、期末残高、利率、返済期限等

該当なし

③学校債の状況

・発行年度、本年度末残高、利率、償還期限等

該当なし

④寄付金の状況

特別寄付金

・後援会からの助成

寄付金額：5,878,044 円

（校舎内清掃費用、学生通学用無料バス運行費用）

一般寄付金

・卒業寄付

寄付金額：680,000 円

・同窓生からの寄付
寄付金額：30,000円

⑤補助金の状況
国庫補助金
・令和5年度私立大学等経常費補助金
補助金額：43,625,000円
（岡山学院大学：25,964,000円、岡山短期大学：17,661,000円）

・令和5年度授業料等減免費交付金
補助金額：16,339,100円
（岡山学院大学：7,366,900円、岡山短期大学：8,972,200円）

地方公共団体補助金
・令和5年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業補助金
補助金額：272,000円

・令和5年度おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金
補助金額：97,000円

・令和5年度倉敷市結核健康診断費補助金
補助金額：58,300円
（岡山学院大学：16,500円、岡山短期大学：41,800円）

監査報告書

学校法人原田学園
理事長　原 田 博 史　殿

作成日　　令和 6 年 5 月 29 日
学校法人原田学園
監事　小野 聡
監事　三宅 俊弘

私は、私立学校法第３７条第３項の規定に基づいて、学校法人原田学園の令和５年度（令和５年４月１日から令和６年３月３１日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書）を含め、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し監査を行いました。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以　上

監査報告書

学校法人原田学園
評議員会議長　殿

作成日　　令和 6 年 5 月 29 日
学校法人原田学園
監事　小野　聡　㊞
監事　三宅　俊弘　㊞

私は、私立学校法第３７条第３項の規定に基づいて、学校法人原田学園の令和５年度（令和５年４月１日から令和６年３月３１日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書）を含め、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し監査を行いました。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以　上